

科目名	子どもの保健 I		単位数	4	担当教員	田中 健							
授業内容	<p>子どもの健康と保健の意義について学ぶ。</p> <p>前期では、「健康や保健の概念」「発育・発達の特徴」「心の健康」「子どもの食生活と栄養」「生命の仕組み」など、からだや心の基本的知識について習得する。</p> <p>後期では、「子どものかかりやすい病気」「感染症の予防」「子どもの事故」「保育環境」など、保育現場における具体的な事柄について学ぶ。</p>												
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 健康や病気・障害、生命の科学的知識を習得する。</li> <li>② 乳幼児の発育・発達について、年齢に応じた客観的な評価ができる。</li> <li>③ 日常遭遇する子どもの病気について、適切な対応ができる。</li> <li>④ 発達段階に応じた事故予防を実践することができる。</li> </ul>												
授業計画	第1回	保育における子どもの保健	第16回	子どもの健康状態の把握									
	第2回	健康の概念と小児保健統計	第17回	子どもかかりやすい病気①ウイルス性感染症									
	第3回	子どもの発育（成長）	第18回	②細菌性感染症									
	第4回	乳幼児身体発育曲線	第19回	③呼吸器、消化器の病気									
	第5回	運動機能の発達	第20回	④皮膚、目の病気									
	第6回	言葉・社会性の発達	第21回	⑤泌尿器の病気									
	第7回	乳幼児発達検査表の見方、使い方	第22回	⑥脳、神経の病気									
	第8回	生理機能の発達	第23回	⑦循環器の病気									
	第9回	感覚機能の発達	第24回	⑧アレルギー疾患									
	第10回	子どもの心の健康	第25回	⑨その他の病気									
	第11回	子どもの食と栄養	第26回	感染症の予防、予防接種									
	第12回	生命の仕組み①細胞、遺伝子、染色体	第27回	学校感染症、健康診断									
	第13回	②優性遺伝、劣性遺伝、伴性遺伝	第28回	子どもの事故									
	第14回	③染色体異常	第29回	保育環境									
	第15回	④多因子性遺伝	第30回	健やかな育ち									
授業に対する 予習・復習	予習： 次回の内容について、教科書に目を通しておく。		復習： 教科書と配布資料の内容を理解して読む。										
成績評価の 方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない</p> <p>筆記試験（70%）、レポート（10%）、課題（10%）、授業態度（10%）</p>												
教科書	『これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健 I』（鈴木美枝子編著、創成社）												
参考文献													
注意事項													

科 目 名	児 童 家 庭 福 祉		単位数	2	担当教員	秋山 展子																														
授 業 の 内 容	現代社会における児童の成長・発達、生活実態や児童福祉の背景、児童福祉の理念や意義について学ぶ。																																			
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童福祉関係法とサービス体系の供給を理解する。</li> <li>・専門職のあり方や児童福祉と環境との関わりの問題を理解する。</li> <li>・相談援助活動や家族支援のための施策等について理解する。</li> </ul>																																			
授 業 計 画	<table border="1"> <tr><td>第 1 回</td><td>現代社会と子ども家庭</td></tr> <tr><td>第 2 回</td><td>子どもの育ち、子育てのニーズ</td></tr> <tr><td>第 3 回</td><td>子ども家庭福祉とは何か</td></tr> <tr><td>第 4 回</td><td>子どもと家庭の権利保障</td></tr> <tr><td>第 5 回</td><td>子ども家庭福祉にかかわる法制度</td></tr> <tr><td>第 6 回</td><td>子ども家庭福祉の実施体制</td></tr> <tr><td>第 7 回</td><td>子ども家庭福祉の専門職</td></tr> <tr><td>第 8 回</td><td>子ども家庭にかかわる福祉・保健</td></tr> <tr><td>第 9 回</td><td>児童健全育成</td></tr> <tr><td>第 10 回</td><td>ひとり親家庭の福祉</td></tr> <tr><td>第 11 回</td><td>児童虐待対策</td></tr> <tr><td>第 12 回</td><td>非行児童・情緒障害児への支援</td></tr> <tr><td>第 13 回</td><td>子どもと家庭にかかわる女性福祉</td></tr> <tr><td>第 14 回</td><td>子ども家庭への援助活動</td></tr> <tr><td>第 15 回</td><td>これまでのまとめ</td></tr> </table>						第 1 回	現代社会と子ども家庭	第 2 回	子どもの育ち、子育てのニーズ	第 3 回	子ども家庭福祉とは何か	第 4 回	子どもと家庭の権利保障	第 5 回	子ども家庭福祉にかかわる法制度	第 6 回	子ども家庭福祉の実施体制	第 7 回	子ども家庭福祉の専門職	第 8 回	子ども家庭にかかわる福祉・保健	第 9 回	児童健全育成	第 10 回	ひとり親家庭の福祉	第 11 回	児童虐待対策	第 12 回	非行児童・情緒障害児への支援	第 13 回	子どもと家庭にかかわる女性福祉	第 14 回	子ども家庭への援助活動	第 15 回	これまでのまとめ
第 1 回	現代社会と子ども家庭																																			
第 2 回	子どもの育ち、子育てのニーズ																																			
第 3 回	子ども家庭福祉とは何か																																			
第 4 回	子どもと家庭の権利保障																																			
第 5 回	子ども家庭福祉にかかわる法制度																																			
第 6 回	子ども家庭福祉の実施体制																																			
第 7 回	子ども家庭福祉の専門職																																			
第 8 回	子ども家庭にかかわる福祉・保健																																			
第 9 回	児童健全育成																																			
第 10 回	ひとり親家庭の福祉																																			
第 11 回	児童虐待対策																																			
第 12 回	非行児童・情緒障害児への支援																																			
第 13 回	子どもと家庭にかかわる女性福祉																																			
第 14 回	子ども家庭への援助活動																																			
第 15 回	これまでのまとめ																																			
授 業 に 対 す る 予習・復習	予習 :	復習 : 配布した資料や教科書を再読し、毎回の復習を各自で行い、理解を深めること。																																		
成績評価の 方 法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない</p> <p>筆記試験（60%）、課題（10%）、授業態度（30%）</p> <p>※講義の中で必要に応じて小テストをおこなう。</p>																																			
教 科 書	『保育者養成シリーズ 新版・児童家庭福祉論』（山崎順子・高玉和子・和田上貴昭編著、一芸社）																																			
参 考 文 献																																				
注 意 事 項	提出物の期限は厳守すること。																																			

科 目 名	総 合 演 習 I	単位数	2	担当教員	染谷哲夫・橋本洋子・星野治			
授 業 の 内 容	少子社会が進む中様々な対策がなされているが、子どもが安心して育つ環境が充分に整えられているとはいえない。そこで、本演習では、3グループに分かれて子どもを取り巻く実状を様々な視点から捉え、理解し、視野を広げるとともに、保育者として適切な対応ができる保育力を養う。また、次年度に開講される総合演習II（卒業研究）のテーマや作業方針を決めるためのヒントを習得する。							
到 達 目 標	1. 子どもの造形活動について主体的に学び理解を深める 2. 文献検索及び発表を通して、保育者として必要な知識・情報を得るための適切な手段を身につける 3. 弱者を守ることの意味を考えながら、防災に対する心構えを習得する							
授 業 計 画	第 1 週	合同授業 本演習のねらい・進め方などに関する説明			第 16 週			
	第 2 週	(染谷) 自然と子どもの 造形表現①	(橋本) 子どもの 食生活の現状	(星野) 防災の基礎知識	第 17 週			
	第 3 週	自然と子どもの 造形表現②	健康を考える	文芸作品と防災(1)	第 18 週			
	第 4 週	造形表現の 発達①	論文の検索と 読み方	文芸作品と防災(2)	第 19 週			
	第 5 週	造形表現の 発達②	文献調査	保育と防災	第 20 週			
	第 6 週	造形表現の 発達③	文献調査	文芸作品と防災(3)	第 21 週			
	第 7 週	造形教材研究①	研究発表(1)	文芸作品と防災(4)	第 22 週			
	第 8 週	造形教材研究②	研究発表(2)	防災関連の 最新情報	第 23 週			
	第 9 週	造形教材 研究発表	研究発表(3) 演習まとめ	演習まとめ	第 24 週			
	第 10 週	合同授業			第 25 週			
	第 11 週	(橋本)	(星野)	(染谷)	第 26 週			
	第 12 週	第 2 週 ～第 9 週 と同じ	第 2 週 ～第 9 週 と同じ	第 2 週 ～第 9 週 と同じ	第 27 週			
	第 13 週				第 28 週			
	第 14 週				合同授業：総合演習II（卒業研究）への準備、その他			
	第 15 週				第 29 週			
					合同授業 全体のまとめ			
授 業 に 対 す る 予習・復習	予習および復習： ラウンド毎に研究発表を行う。授業時間内で準備できない場合、教員の指示にしたがい期日までに課題を済ませておくこと							
成績評価の 方 法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（40%）、発表（40%）、授業態度（20%）							
教 科 書	必要に応じて隨時紹介する							
参 考 文 献	必要に応じて随时紹介する							
注 意 事 項	グループ毎の演習8回を1ラウンドとするオムニバス形式が中心となる。各ラウンドの担当教員の指導にしたがうこと。							

科 目 名	総 合 演 習 II ( 卒 業 研 究 )	単 位 数	2	担 当 教 員	染 谷 哲 夫
授 業 の 内 容	保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。美術・図画工作・造形に関する分野についての研究であり、主なテーマとしては、『絵本や紙芝居の研究・制作』『手作りおもちゃの研究・制作』『教材研究について』『子どもの造形表現活動について』『造形教育の歴史』等である。				
到 達 目 標	各自のテーマに基づいて主体的に研究論文をまとめる。このことを通じ保育者として必要な専門的知識をさらに深める。				
授 業 計 画	第 1 回	授業の進め方と年間計画	第 16 回	後期授業の進め方	
授 業 計 画	第 2 回	研究テーマの選定①	第 17 回	研究・制作⑥	
	第 3 回	研究テーマの選定②	第 18 回	研究・制作⑦	
	第 4 回	研究テーマの選定③	第 19 回	研究・制作⑧	
	第 5 回	研究テーマの決定・計画	第 20 回	研究・制作⑨	
	第 6 回	文献・資料収集①	第 21 回	研究・制作⑩	
	第 7 回	文献・資料収集②	第 22 回	研究・制作⑪	
	第 8 回	文献・資料収集③	第 23 回	研究・制作⑫	
	第 9 回	研究の視点・構成①	第 24 回	研究成果 修正とまとめ①	
	第 10 回	研究の視点・構成②	第 25 回	研究成果 修正とまとめ②	
	第 11 回	研究・制作① (中間発表)	第 26 回	研究成果 修正とまとめ③	
	第 12 回	研究・制作②	第 27 回	研究成果 修正とまとめ④	
	第 13 回	研究・制作③	第 28 回	研究成果 発表①	
	第 14 回	研究・制作④	第 29 回	研究成果 発表②	
	第 15 回	研究・制作⑤ (前期まとめ)	第 30 回	まとめ	
授 業 に 対 す る 予習・復習	予習： 問題意識を持ちながら積極的に取り組む	復習：			
成 績 評 価 の 方 法	試験期間における定期試験： 実施 ( ) する／(○) しない レポート (60%)、発表 (10%)、授業態度 (30%)				
教 科 書					
参 考 文 献	必要に応じて案内する。				
注 意 事 項	自分の研究テーマを明確にし、3年間のまとめとして充実した研究となるよう期待している。				

科 目 名	総合演習Ⅱ（卒業研究）		単位数	2	担当教員	橋本 洋子							
授 業 の 内 容	保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。研究テーマは食や健康など日常生活全般にわたる。												
到 達 目 標	演習生一人ひとりが、 ①子どもを取り巻く生活環境を理解する ②研究テーマをみつけ様々な角度から情報を収集し検証する力を身につける ③調査結果等から疑問を解決し、まとめる力を身につける ことを主たる目標とする。												
授 業 計 画	第1回	講義の方針と進め方について	第16回	論文の執筆・フィールドワーク									
	第2回	各学生により研究テーマの選定・計画①	第17回	論文の執筆・フィールドワーク									
	第3回	各学生により研究テーマの選定・計画②	第18回	論文の執筆・フィールドワーク									
	第4回	各学生により研究テーマの選定・計画③	第19回	論文の執筆・フィールドワーク									
	第5回	文献・資料収集、観察①	第20回	論文の執筆・データ解析									
	第6回	文献・資料収集、観察②	第21回	論文の執筆・データ解析									
	第7回	文献・資料収集、観察③	第22回	論文の執筆・データ解析									
	第8回	先行研究の発表①	第23回	論文の執筆・データ解析									
	第9回	先行研究の発表②	第24回	論文の執筆・データ解析									
	第10回	先行研究の発表③	第25回	論文の修正①									
	第11回	研究内容の方向づけ①	第26回	論文の修正②									
	第12回	研究内容の方向づけ②	第27回	論文の修正③									
	第13回	論文執筆の説明	第28回	論文発表									
	第14回	論文内容の検討①	第29回	論文発表									
	第15回	論文内容の検討②	第30回	まとめ									
授 業 に 対 す る 予習・復習	予習：配布資料および収集した論文等は次回の授業までに予め目を通しておく。		復習：										
成 績 評 価 の 方 法	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 論文（70%）、発表（20%）、授業態度（10%）												
教 科 書	※必要に応じて資料を配布する												
参 考 文 献	※必要に応じて隨時紹介する												
注 意 事 項	保育者としての視点から、「食」や「健康」をはじめとした自然科学の分野においてテーマをもち、文献研究や観察研究をすすめ、論文としてまとめていく。演習生それぞれが自分の研究テーマに向かって積極的に取り組むことを期待する。先行論文や白書などを参考に情報を収集し、綿密な計画を立て、取り組んでほしい。												

科目名	総合演習Ⅱ（卒業研究）	単位数	2	担当教員	加賀谷 崇文
授業内容	保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。 研究テーマとしては、臨床心理学に関連する「母子関係」「保育者のメンタルケア」「子育て支援」などを中心とする。				
到達目標	1. 各自の興味に沿った研究テーマを見出す。 2. 保育に関する自分なりの視点を持つ。 3. 自分自身の考えを言語化できるようになる。				
授業計画	第1回 講義の方針と年間計画	第16回 論文の執筆①			
	第2回 各学生によるテーマの選定①	第17回 論文の執筆②			
	第3回 各学生によるテーマの選定②	第18回 論文の執筆③			
	第4回 各学生によるテーマの選定③	第19回 論文の執筆④			
	第5回 文献の収集①	第20回 論文の執筆⑤			
	第6回 文献の収集②	第21回 論文の執筆⑥			
	第7回 文献の収集③	第22回 論文の執筆⑦			
	第8回 先行研究の発表①	第23回 論文の執筆⑧			
	第9回 先行研究の発表②	第24回 論文の執筆⑨			
	第10回 先行研究の発表③	第25回 論文の執筆⑩			
	第11回 先行研究の発表④	第26回 論文の修正①			
	第12回 先行研究の発表⑤	第27回 論文の修正②			
	第13回 論文執筆の説明	第28回 論文発表会			
	第14回 論文内容の検討①	第29回 論文発表会			
	第15回 論文内容の検討②	第30回 まとめ			
授業に対する予習・復習	予習： 学生生活の中で常に自身の興味があるテーマについて模索する。	復習： 授業中に受けた指導を元に次回の授業までに必ず研究を進める。			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（30%）、授業態度（70%）				
教科書					
参考文献					
注意事項	授業中の作業は卒業研究を行うための補助的なものであり、授業以外の時間帯に研究をおこなうこと。				

科 目 名	総合演習Ⅱ（卒業研究）	単位数	2	担当教員	大輪 公彦
授 業 の 内 容	保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。				
到 達 目 標	学生諸氏が下記の内容を修得出来るようにする。 1) 論文口調で文章を書くこと。 2) 要約・縮約の技術を身につける。 3) 論文の書式（文献表等の書き方）を身につける。				
授 業 計 画	第1回	オリエンテーション	第16回	中間報告	洋書文献・他の書式
	第2回	音楽領域研究の方法 1 洋楽	第17回	論文の推敲	1 論文口調は整っているか
	第3回	〃 2 日本音楽	第18回	〃 2 各題における全体の配分	
	第4回	〃 3 その他の音楽	第19回	〃 3 要旨を的確に記述しているかどうか	
	第5回	テーマの設定とグループ分け	第20回	最終報告	1 注釈・引用文・引用法
	第6回	テーマの決定	第21回	〃	2 参考文献の本文中の示し方
	第7回	テーマに関する図書研究 1 図書館の機能と検索法	第22回	〃	3 従来型の示し方
	第8回	〃 2 秋草学園図書館	第23回	〃	4 近年型の示し方
	第9回	〃 3 外部図書館	第24回	卒業論文指導	1 インターネット資料の表記
	第10回	資料検索と論文書式 1 資料検索法	第25回	〃	2 新聞記事の表記
	第11回	〃 2 検索資料の確認	第26回	〃	3 書名をどのように表記するか
	第12回	〃 3 参考引用資料の書式法	第27回	〃	4 引用文献一覧の作成
	第13回	中間報告 概要	第28回	〃	5 参考文献一覧の作成
	第14回	〃 文献について	第29回	卒業論文報告	
	第15回	〃 文献の書式	第30回	レジュメ発表	
授 業 に 対 す る 予習・復習	予習： 新聞の特に社説欄を熟読すること	復習：	社説の読後、その内容を要約・縮約する。		
成績評価の 方 法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（100%）				
教 科 书	毎時プリントを配布。				
参 考 文 献	『日本語練習帳』（大野晋、岩波新書）				
注 意 事 項	自分の研究テーマを明確にし、積極的に取り組むことを期待する。 論文完成までのマクロ的な計画を立てて進める。				

科 目 名	総合演習Ⅱ（卒業研究）	単位数	2	担当教員	土屋由
授 業 の 内 容	保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。 主な研究テーマとしては、「保育内容」「子どもの生活・遊びや文化に関すること」「育児・家族に関すること」などである。保育所・幼稚園・家庭をフィールドとする質的研究および文献研究を行い、論文としてまとめる。				
到 達 目 標	学生が自らの興味・関心に基づいて研究テーマを設定し、先行研究の検討から問題の所在を明らかにし、インタビューや文献調査などの方法により、必要な資料収集および考察を進め、卒業論文をまとめる。				
授 業 計 画					
授 業 計 画	第1回	講義の方針と年間計画	第16回	調査の実施に向けた準備	
	第2回	フィールドワークの方法①	第17回	調査の実施①	
	第3回	フィールドワークの方法②	第18回	調査の実施②	
	第4回	フィールドワークの方法③	第19回	結果の整理①	
	第5回	研究テーマの選定	第20回	結果の整理②	
	第6回	研究テーマについて必要な文献を集める①	第21回	考察を進める①	
	第7回	研究テーマについて必要な文献を集める②	第22回	考察を進める②	
	第8回	先行研究の検討①	第23回	考察を進める③	
	第9回	先行研究の検討②	第24回	結論および今後の課題の検討①	
	第10回	問題の所在を明らかにする①	第25回	結論および今後の課題の検討②	
	第11回	問題の所在を明らかにする②	第26回	研究のまとめ①	
	第12回	中間報告①	第27回	研究のまとめ②	
	第13回	中間報告②	第28回	論文発表①	
	第14回	子ども関連施設の見学①	第29回	論文発表②	
	第15回	子ども関連施設の見学②	第30回	まとめ	
授 業 に 対 す る 予習・復習	予習： 研究テーマ設定のための下調べをすること、文献や資料に目を通すこと、課題をこなすことが必要である。	復習： 課題についての修正や論文の執筆作業を進めること。			
成績評価の方 法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 論文（70%）、発表（20%）、授業態度（10%）				
教 科 書	特になし				
参 考 文 献	『大学生のためのレポート・論文術』（小笠原喜康、講談社新書） 『論文の教室』（戸田山和久、NHKブックス）				
注 意 事 項	研究テーマを明確にすること、必要な文献をしっかりと読みこなすことを期待したい。				

科 目 名	総合演習Ⅱ（卒業研究）	単位数	2	担当教員	伊藤 明芳						
授 業 の 内 容	保育、幼児教育に関する幅広い分野から、学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じて保育者として必要な専門的知識をさらに深める。										
	研究テーマ； 1. 発達心理学など、子どもや保育・教育に関わる心理学全般 2. 「子育て支援」に関する分野 3. 「教育・保育相談」、「カウンセリング」などの分野										
到 達 目 標	卒業研究(卒業論文)の作成を通して、研究の方法を修得し、学生個々が選んだテーマに関する見識を深めること。										
授 業 計 画	第1回	本ゼミの方針と年間計画	第16回	論文執筆①							
	第2回	論文作成についての概説	第17回	論文執筆②							
	第3回	各学生による研究テーマの選定①	第18回	論文執筆③							
	第4回	各学生による研究テーマの選定②	第19回	論文執筆④							
	第5回	各学生による研究テーマの選定③	第20回	論文執筆⑤							
	第6回	各学生による研究テーマの選定④	第21回	論文執筆⑥							
	第7回	文献・資料収集①	第22回	論文執筆⑦							
	第8回	文献・資料収集②	第23回	論文執筆⑧							
	第9回	文献・資料収集③	第24回	論文の修正①							
	第10回	卒論計画の発表①	第25回	論文の修正②							
	第11回	卒論計画の発表②	第26回	論文の修正③							
	第12回	卒論計画の発表③	第27回	論文の修正④							
	第13回	論文執筆の説明	第28回	論文発表会							
	第14回	論文内容の検討①	第29回	論文発表会							
	第15回	論文内容の検討②	第30回	まとめ							
授 業 に 対 す る 予習・復習	予習： 研究テーマを決定し、卒業研究作成スケジュール等を理解する。	復習： 卒業研究の作成。									
成績評価の方 法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（70%）、発表（30%）										
教 科 書	特に指定しない										
参 考 文 献	隨時紹介										
注 意 事 項	論文提出の締め切りは 12 月中旬(予定)、論文提出後、指導教員から修正を求められた場合は、その作業も発表に含み評価を行う。										

科 目 名	総 合 演 習 II ( 卒 業 研 究 )	単 位 数	2	担 当 教 員	星 野 治
授 業 の 内 容	保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成します。 講義は少人数によるゼミナール形式で行われます。 論文提出後には、各ゼミナール単位での発表会が行われます。				
到 達 目 標	・“保育・幼児教育の専門家”としての将来の自分自身を想定しながら、「災害サバイバルシミュレーション」を行います。 ・上記シミュレーションの結果に対する各自の見解を、卒業研究として整理します。 ・通年の研究活動を通して、主に防災の観点から、保育者として必要な専門的知識をさらに深められます。				
授 業 計 画	第 1 回	前期ガイダンス (演習の目的、進めかたなど)	第 16 回	後期ガイダンス (研究テーマの選びかた、レポートの書きかた)	
	第 2 回	既存資料の閲覧① (資料の検索・選択)	第 17 回	既存資料の閲覧⑬ (特定の視点からみた複数資料の検索・選択)	
	第 3 回	既存資料の閲覧② (資料の内容の読解)	第 18 回	既存資料の閲覧⑭ (複数資料の総合評価)	
	第 4 回	既存資料の閲覧③ (資料の内容に対する解釈考察)	第 19 回	既存資料の閲覧⑮ (複数資料の総合評価の文章化)	
	第 5 回	既存資料の閲覧④ (資料に関するレポートの作成)	第 20 回	既存資料の閲覧⑯ (複数資料の総合評価の発表)	
	第 6 回	既存資料の閲覧⑤ (資料に関するレポートの発表)	第 21 回	第 17 週～第 20 週のまとめ (これまでの内容を総括・整理する)	
	第 7 回	既存資料の閲覧⑥ (資料に関するレポートの発表)	第 22 回	卒業研究① (研究テーマの決定)	
	第 8 回	第 2 回～第 7 回のまとめ (これまでの内容を総括・整理する)	第 23 回	卒業研究② (研究方針の決定)	
	第 9 回	既存資料の閲覧⑦ (類似テーマを扱った複数資料の検索・選択)	第 24 回	卒業研究③ (研究内容の文章化ほか)	
	第 10 回	既存資料の閲覧⑧ (複数資料の内容の読解)	第 25 回	卒業研究④ (研究内容の中間発表)	
	第 11 回	既存資料の閲覧⑨ (複数資料の内容に対する解釈考察)	第 26 回	卒業研究⑤ (研究内容の文章化ほか)	
	第 12 回	既存資料の閲覧⑩ (複数資料に関するレポートの作成)	第 27 回	卒業研究⑥ (レポートの完成および提出)	
	第 13 回	既存資料の閲覧⑪ (複数資料に関するレポートの発表)	第 28 回	卒業研究⑦ (研究内容の発表)	
	第 14 回	既存資料の閲覧⑫ (複数資料に関するレポートの発表)	第 29 回	卒業研究⑧ (研究内容の最終修正)	
	第 15 回	第 9 週～第 14 週のまとめ (これまでの内容を総括・整理する)	第 30 回	全体のまとめ (通年の研究成果を整理する)	
授 業 に 対 す る 予習・復習	予習： 予習に必要な事項については、担当教員が指示します。	復習： 復習に必要な事項については、担当教員が指示します。			
成 績 評 価 の 方 法	試験期間における定期試験： 実施 ( ) する／(○) しない レポート (70%)、発表 (20%)、授業態度 (10%)				
教 科 書	必要に応じて隨時指定します。				
参 考 文 献	必要に応じて隨時紹介します。				
注 意 事 項	・架空の災害の状況を具体的な事件（バーチャルリアリティ）として頭の中で想起するためには、“各種災害に関する基礎知識”や“豊かなイメージング能力”に加えて、“強い精神力”が必要です。 ・入手困難な資料類（他大学付属図書館が所蔵する学術文献、出版時期の古い一般向け雑誌、その他）が必要となった場合、早めに担当教員へ相談してください。 ・提出締め切り後に担当教員から卒業研究の修正を求められた場合、その修正作業に対する評価は「発表」に含まれます。				

科 目 名	総合演習Ⅱ（卒業研究）	単位数	2	担当教員	越川 葉子
授 業 の 内 容	保育、幼児教育に関連する幅広い分野から、学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>文献講読により各自のテーマに応じた基礎的知識を主体的に学ぶことができる。</li> <li>資料収集やフィールドワークを取り入れながら論文執筆に取り組むことができる。</li> <li>「子どもをめぐる教育問題」「子どもの問題行動」「子ども観の変容」を中心としたテーマについて、自分なりの見解を説得的に論じることができるようになる。</li> </ul>				
授 業 計 画	第1回	授業の進め方	第16回	論文の執筆	
	第2回	文献による基礎研究①	第17回	論文の執筆	
	第3回	文献による基礎研究②	第18回	論文の執筆	
	第4回	研究テーマの選定および問題関心の検討①	第19回	論文の執筆	
	第5回	研究テーマの選定および問題関心の検討②	第20回	論文の執筆	
	第6回	参考文献の探し方・資料収集の方法	第21回	論文の執筆	
	第7回	引用・注記の仕方・ネット情報の扱い方	第22回	論文の執筆	
	第8回	調査方法の選定	第23回	論文の執筆	
	第9回	先行研究の検討①	第24回	中間発表	
	第10回	先行研究の検討②	第25回	論文の修正	
	第11回	論文の構成①	第26回	論文の修正	
	第12回	論文の構成②	第27回	論文の修正	
	第13回	中間発表	第28回	論文発表	
	第14回	中間発表	第29回	論文発表	
	第15回	後期に向けた課題の確認	第30回	まとめ	
授 業 に 対 す る 予習・復習	予習：参考文献を通読し、疑問点や質問点を事前にまとめておくこと。 参考文献に関する書籍・論文を調べ、講義の中で紹介できるよう準備する。	復習：受講生内での意見交換をもとに、各自のテーマに関連する意見や文献情報を記録していくこと。			
成 績 評 価 の 方 法	<p>試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない</p> <p>論文（70%）、発表（20%）#提出後、指導教員から修正を求められた場合は、その作業も発表に含み評価を行う、授業態度（10%）</p>				
教 科 書	特になし。				
参 考 文 献	必要に応じて適宜、紹介する。				
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の研究テーマを明確にし、積極的に取り組むことを期待する。</li> <li>子どもとの関わりを通して疑問に思ったことや悩んだ経験について、日ごろから記録をとておくことを期待する。受講生が実践経験から得た感覚は、卒業研究の問題関心を見つけるうえで、貴重なヒントになるはずである。</li> </ul>				

科 目 名	総合演習Ⅱ（卒業研究）	単位数	2	担当教員	秋山 展子						
授 業 の 内 容	保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。研究テーマとしては、「地域における健全育成」、「現代における子どもの居場所」等のキーワードを中心とする。										
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>論文の作成方法を学ぶ。</li> <li>少人数のゼミナール形式で協調性を身につける</li> <li>論文作成を通して、保育者として必要な専門的知識を深める。</li> </ul>										
授 業 計 画	第1週	授業の進め方	第16週	研究論文の執筆①							
	第2週	文献、視聴覚教材による基礎研究①	第17週	研究論文の執筆②							
	第3週	文献、視聴覚教材による基礎研究②	第18週	研究論文の執筆③							
	第4週	テーマの設定①	第19週	研究論文の執筆④							
	第5週	テーマの設定②	第20週	研究論文の執筆⑤							
	第6週	文献、資料などの収集①	第21週	研究論文の執筆⑥							
	第7週	文献、資料などの収集②	第22週	研究論文の執筆⑦							
	第8週	文献、資料などの収集③	第23週	研究論文の執筆⑧							
	第9週	調査、研究の方法①	第24週	中間発表							
	第10週	調査、研究の方法②	第25週	論文の修正①							
	第11週	論文の執筆について	第26週	論文の修正②							
	第12週	中間発表①	第27週	論文の修正③							
	第13週	中間発表②	第28週	論文発表①							
	第14週	論文の検討①	第29週	論文発表②							
	第15週	論文の検討②	第30週	まとめ							
授 業 に 対 す る 予習・復習	予習： 毎週提示される課題に沿って、研究を各自で進めてくること。	復習：									
成 績 評 価 の 方 法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない</p> <p>論文（70%）、発表（20%）、授業態度（10%）</p> <p>提出後、指導教員から修正を求められた場合は、その作業も発表に含み評価を行う。</p>										
教 科 書											
参 考 文 献											
注 意 事 項	自分の研究テーマを明確にし、積極的に取り組むことを期待する。										

科目名	地域活動Ⅱ		単位数	2	担当教員	伊藤明芳・星野治					
授業内容	'地域活動Ⅱ'は「地域活動Ⅰ」での学びと実践を基礎にして第2年次に行う。具体的には、受講生自らが居住地域に活動場所を選定し、活動の依頼を行い、定まった場所(一か所)にて継続して活動を行うことを中心とする。そして、活動で得た記録、反省、気づき等をレポートに丁寧にまとめ、さらに、報告とディスカッションを通じて受講生同士で共有を図り、活動で得たものより豊かにして全員の糧となるようにする。										
到達目標	'地域のニーズにあった支援をする'保育者を目指し、ⅠとⅡ共通のねらいである。 ①地域の子育ての実態を理解する。 ②地域の子育てのニーズを学ぶ、をより深く実習し、課題を発見し考察を行える力の養成を目標とする。										
授業計画	第1回	イントロダクション(導入)	第16回	事前指導⑤(基本マナーや課題の見直し等)							
	第2回	事前指導①(活動場所の選定等)	第17回	事前指導⑥(基本マナーや課題の見直し等)							
	第3回	事前指導②(活動場所の選定等)	第18回	地域活動⑥(受講生の居住地域にて)							
	第4回	事前指導③(マナーや課題の設定等)	第19回	地域活動⑦(受講生の居住地域にて)							
	第5回	事前指導④(マナーや課題の設定等)	第20回	地域活動⑧(受講生の居住地域にて)							
	第6回	地域活動①(受講生の居住地域にて)	第21回	地域活動⑨(受講生の居住地域にて)							
	第7回	地域活動②(受講生の居住地域にて)	第22回	地域活動⑩(受講生の居住地域にて)							
	第8回	地域活動③(受講生の居住地域にて)	第23回	事後指導⑤							
	第9回	地域活動④(受講生の居住地域にて)	第24回	事後指導⑥							
	第10回	地域活動⑤(受講生の居住地域にて)	第25回	事後指導⑦(振り返りとディスカッション等)							
	第11回	事後指導①	第26回	事後指導⑧(振り返りとディスカッション等)							
	第12回	事後指導③(振り返りとディスカッション等)	第27回	事後指導⑨(振り返りとディスカッション等)							
	第13回	事後指導③(振り返りとディスカッション等)	第28回	事後指導⑩(一年生との合同検討会等)							
	第14回	事後指導④(振り返りとディスカッション等)	第29回	事後指導⑪(一年生との合同検討会等)							
	第15回	前期のまとめと後期の学びへの助言	第30回	一年間の総合的まとめと今後の学びへの助言							
授業に対する 予習・復習	予習： 活動場所に選定と依頼等を丁寧におこない活動に臨む。	復習： 活動で得た学び等をまとめる。									
成績評価の方 法	試験期間における定期試験： 実施（）する／（○）しない レポート（40%）、課題（60%） ※課題とは地域活動参加回数や態度である。										
教科書	特に指定しない										
参考文献	講義の際に随時紹介する										
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目(実習)は卒業要件である。</li> <li>・活動場所は主に受講生それぞれの居住地域の施設、学校、行政等が実施する活動を受講生自ら選定し、依頼を行い、活動に参加する。</li> <li>・活動は、土日祝日と長期休暇中に行う。できるだけ一か所の場所で継続して複数回の活動を行う。</li> </ul>										

科 目 名	保 育 原 理 II		单 位 数	2	担 当 教 員	土 屋 由																														
授 業 の 内 容	<p>保育原理 I での学びを踏まえ、以下の内容を中心に学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 保育者の専門性として子ども・保護者・保育者同士のかかわりの中で求められるもの</li> <li>② 乳児保育や延長・夜間保育、特別な配慮を必要とする子どもへの対応</li> <li>③ 保育所や幼稚園、認可外保育施設の現状や課題</li> <li>④ 子ども、保護者を取り巻く課題</li> </ul>																																			
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者の専門性として、子ども・保護者・保育者同士のかかわりの中で求められるものを理解する。</li> <li>・乳児保育や延長・夜間保育、特別な配慮を必要とする子どもへの対応を理解する。</li> <li>・保育所や幼稚園、認定こども園、地域型保育といった保育の場について、現状や課題を理解する。</li> </ul>																																			
授 業 計 画	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">第 1 回</td><td style="padding: 2px;">オリエンテーション</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第 2 回</td><td style="padding: 2px;">保育者の専門性①子どもとのかかわりの中で求められるもの</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第 3 回</td><td style="padding: 2px;">保育者の専門性②保護者とのかかわりの中で求められるもの</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第 4 回</td><td style="padding: 2px;">保育者の専門性③保育者同士のかかわりの中で求められるもの、保育者の成長と研修</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第 5 回</td><td style="padding: 2px;">健康・安全と多様な子どもの保育への対応①健康と安全に関する留意事項</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第 6 回</td><td style="padding: 2px;">健康・安全と多様な子どもの保育への対応②乳児保育への対応</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第 7 回</td><td style="padding: 2px;">健康・安全と多様な子どもの保育への対応③延長・夜間における子どもの保育</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第 8 回</td><td style="padding: 2px;">健康・安全と多様な子どもの保育への対応④特別な配慮を必要とする子どもと保護者への対応</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第 9 回</td><td style="padding: 2px;">保育の現状と課題①保育所の現状</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第 10 回</td><td style="padding: 2px;">保育の現状と課題②幼稚園の現状</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第 11 回</td><td style="padding: 2px;">保育の現状と課題③認可外保育施設の現状</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第 12 回</td><td style="padding: 2px;">保育の現状と課題④保育の質と評価</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第 13 回</td><td style="padding: 2px;">保育の現状と課題⑤認定こども園の設立と今後の展望</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第 14 回</td><td style="padding: 2px;">保育の現状と課題⑥子ども・保護者を取り巻く課題</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第 15 回</td><td style="padding: 2px;">まとめ、保育研究の視点</td></tr> </table>						第 1 回	オリエンテーション	第 2 回	保育者の専門性①子どもとのかかわりの中で求められるもの	第 3 回	保育者の専門性②保護者とのかかわりの中で求められるもの	第 4 回	保育者の専門性③保育者同士のかかわりの中で求められるもの、保育者の成長と研修	第 5 回	健康・安全と多様な子どもの保育への対応①健康と安全に関する留意事項	第 6 回	健康・安全と多様な子どもの保育への対応②乳児保育への対応	第 7 回	健康・安全と多様な子どもの保育への対応③延長・夜間における子どもの保育	第 8 回	健康・安全と多様な子どもの保育への対応④特別な配慮を必要とする子どもと保護者への対応	第 9 回	保育の現状と課題①保育所の現状	第 10 回	保育の現状と課題②幼稚園の現状	第 11 回	保育の現状と課題③認可外保育施設の現状	第 12 回	保育の現状と課題④保育の質と評価	第 13 回	保育の現状と課題⑤認定こども園の設立と今後の展望	第 14 回	保育の現状と課題⑥子ども・保護者を取り巻く課題	第 15 回	まとめ、保育研究の視点
第 1 回	オリエンテーション																																			
第 2 回	保育者の専門性①子どもとのかかわりの中で求められるもの																																			
第 3 回	保育者の専門性②保護者とのかかわりの中で求められるもの																																			
第 4 回	保育者の専門性③保育者同士のかかわりの中で求められるもの、保育者の成長と研修																																			
第 5 回	健康・安全と多様な子どもの保育への対応①健康と安全に関する留意事項																																			
第 6 回	健康・安全と多様な子どもの保育への対応②乳児保育への対応																																			
第 7 回	健康・安全と多様な子どもの保育への対応③延長・夜間における子どもの保育																																			
第 8 回	健康・安全と多様な子どもの保育への対応④特別な配慮を必要とする子どもと保護者への対応																																			
第 9 回	保育の現状と課題①保育所の現状																																			
第 10 回	保育の現状と課題②幼稚園の現状																																			
第 11 回	保育の現状と課題③認可外保育施設の現状																																			
第 12 回	保育の現状と課題④保育の質と評価																																			
第 13 回	保育の現状と課題⑤認定こども園の設立と今後の展望																																			
第 14 回	保育の現状と課題⑥子ども・保護者を取り巻く課題																																			
第 15 回	まとめ、保育研究の視点																																			
授 業 に 対 す る 予習・復習	予習： 次回の授業の範囲について、教科書に目を通すこと。		復習： 授業で扱った内容について、教科書や配布プリントに記載されている情報について、ノートに整理して記入しておくこと。																																	
成 績 評 価 の 方 法	<p>試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない</p> <p>筆記試験（70%）、レポート（20%）、課題（10%）</p>																																			
教 科 書	『よくわかる保育原理』（森上史朗・大豆生田啓友、ミネルヴァ書房）																																			
参 考 文 献	参考文献は、授業において紹介する。																																			
注 意 事 項	他の受講生の意見や考えを聞き、自分の考えと相対化することで、学びを深めてほしい。																																			

科目名	保育の心理学	単位数	1	担当教員	伊藤 明芳																														
授業内容	本講義では、講義「発達心理学」の内容を踏まえて、発達心理学と教育心理学等の基礎的知識の拡充と現場で生きる実践的能力の応用を図ることを目的とする。 保育方法の工夫への手立て、家庭や保護者との関わり、保育者自身の心の安定と成長等にもアプローチしたいと考えている。																																		
到達目標	①発達心理学、教育心理学等の基本的および発展的知識を正確に習得する。 ②学んだ知識を活用して、実際の保育現場の子どもの心の発達等について考えられる力を身につける。 ③子どもや大人の心の発達理解と子育て支援にどのように活かせるのかを考え、実践できるようになる。																																		
授業計画	<table border="1"> <tr><td>第1回</td><td>イントロダクション</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>保育の心理学の基礎①【発達理論の復習】</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>保育の心理学の基礎②【発達理論の応用】</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>保育の心理学の基礎③【教育心理学理論等の復習】</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>保育の心理学の基礎④【教育心理学理論等の応用】</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>知的機能</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>情緒</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>社会性</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>発達障害①【発達障害とは何か】</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>発達障害②【発達障害の種類】</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>発達障害③【発達障害への対応】</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>子どもの発達への関わりと保育方法の工夫</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>家庭、保護者、他機関等との連携</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>保育者自身の心の健康</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>まとめと今後のアドバイス</td></tr> </table>					第1回	イントロダクション	第2回	保育の心理学の基礎①【発達理論の復習】	第3回	保育の心理学の基礎②【発達理論の応用】	第4回	保育の心理学の基礎③【教育心理学理論等の復習】	第5回	保育の心理学の基礎④【教育心理学理論等の応用】	第6回	知的機能	第7回	情緒	第8回	社会性	第9回	発達障害①【発達障害とは何か】	第10回	発達障害②【発達障害の種類】	第11回	発達障害③【発達障害への対応】	第12回	子どもの発達への関わりと保育方法の工夫	第13回	家庭、保護者、他機関等との連携	第14回	保育者自身の心の健康	第15回	まとめと今後のアドバイス
第1回	イントロダクション																																		
第2回	保育の心理学の基礎①【発達理論の復習】																																		
第3回	保育の心理学の基礎②【発達理論の応用】																																		
第4回	保育の心理学の基礎③【教育心理学理論等の復習】																																		
第5回	保育の心理学の基礎④【教育心理学理論等の応用】																																		
第6回	知的機能																																		
第7回	情緒																																		
第8回	社会性																																		
第9回	発達障害①【発達障害とは何か】																																		
第10回	発達障害②【発達障害の種類】																																		
第11回	発達障害③【発達障害への対応】																																		
第12回	子どもの発達への関わりと保育方法の工夫																																		
第13回	家庭、保護者、他機関等との連携																																		
第14回	保育者自身の心の健康																																		
第15回	まとめと今後のアドバイス																																		
授業に対する 予習・復習	予習 :	復習 : 毎回、学んだ知識を正確に習得できるようすること。																																	
成績評価の 方 法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（）しない 筆記試験（60%）、レポート（40%）																																		
教科書	特に指定しない																																		
参考文献	『発達心理学』（越智幸一 編、大学図書出版、2015） 他の参考図書等については、講義の中で必要に応じて適宜紹介する																																		
注意事項	講義を中心におこなう。実際の事例などをあげ、受講生にわかりやすい内容を心がけたい。その他、事例研究やビデオ視聴等で理解を深め、それを保育の実践に活かすことを考える。 受講者には自ら学び考える意欲をもって授業に参加する態度が求められる。																																		

科目名	子どもの保健Ⅱ	単位数	1	担当教員	山口 さとみ		
授業内容	保育において子どもの健康と安全を守り支援していくことは大切な役割である。身体的な発育や運動機能や精神機能の発達がめざましく成長する過程において、保育者としての保健活動や保護者への支援のための知識を学ぶ。さらに、健康上の配慮を必要とする子どもへの対応や事故・救急時の対応について学ぶ						
到達目標	1) 保健活動に必要な知識を理解できる 2) 演習を通して保育者に必要な実践能力を身につける 3) 体調不良や個別的な配慮を必要とする子どもへの対応、また、救急時の対応について理解できる						
授業計画	第1回 オリエンテーション 演習についての注意事項 子どもの発育・発達の観察と評価① (発育・発達) 第2回 子どもの発育・発達の観察と評価② (身体計測演習) 第3回 子どもの健康観察と健康管理 (バイタルサインの測定 評価方法) 第4回 子どもの養護と教育① (抱っこ おんぶ 排泄) 第5回 子どもの養護と教育② (清潔) 第6回 子どもの養護と教育③ (沐浴・衣類の着脱・おむつ交換演習) 第7回 子どもの養護と教育④ (栄養) 第8回 子どもの生活習慣 (睡眠 生活リズムの形成) 第9回 体調不良の子どもへの対応① (発熱 下痢 嘔吐 咳 発疹 腹痛) 第10回 体調不良の子どもへの対応② (けいれん 脱水 頭痛 鼻汁・鼻閉など) 第11回 体調不良の子どもへの対応③ (感染性疾患 など 園における薬の取り扱い) 第12回 個別な配慮を必要とする子どもへの対応 (アレルギー疾患 喘息 アトピー性皮膚炎など) 第13回 子どもの心と体の健康づくりのために (保健活動計画 演習) 第14回 望ましい保育環境と安全対策 (衛生管理 安全管理) 第15回 保育における応急手当 (出血 やけど 骨折など)						
授業に対する予習・復習	予習： 授業計画を参考に教科書で内容を確認する			復習： 授業・演習で習得した知識を確認する			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施 (○) する／( ) しない 筆記試験 (50%)、課題 (25%)、実技 (10%)、授業態度 (15%)						
教科書	『これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健Ⅱ』(鈴木美枝子 編著、創成社)						
参考文献	必要時資料配布						
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>筆記用具、掲示された教材は忘れずに持参すること</li> <li>グループ演習は、メンバー同士協力し全員が積極的に演習に取り組むこと</li> <li>授業中の私語、飲食、携帯電話は禁止</li> </ul>						

科 目 名	子どものための食育実習	単位数	1	担当教員	橋本 洋子
授 業 の 内 容	子どもは、乳・幼児期の短期間にめざましい摂食機能の発達を遂げる。この食育実習では、1年次の「子どもの食と栄養」で学んだ知識をもとに、子どもの発達過程に応じた食事を実際に調理し試食することにより咀嚼機能の発達を理解し、乳幼児に関わる専門職としての適切な食指導・食支援の方法を学ぶ。基本的な調理の知識・技術を習得する。				
到 達 目 標	①準備（計る・洗うなど）から片付けにいたる調理に必要な知識、技術を身につける ②たんに「空腹を満たす食事」ではない、子どもの月齢と咀嚼機能に合った食品の選択、調理方法（適切な量・調理形態）を理解し実践できる ③「美味しい」「楽しい」かつ「安全な」食事を提供するための環境整備ができる				
授 業 計 画	第1回 オリエンテーション：調理室の使い方、調理の基本、おやつ				
	第2回 調乳・赤ちゃん人形				
	第3回 離乳食（準備食・5～6か月）				
	第4回 離乳食（7～8か月）、間食				
	第5回 離乳食（9～11か月）				
	第6回 離乳食（12～18か月）				
	第7回 幼児の食事（1～2才、3～5才）				
	第8回 幼児のおべんとう				
	第9回 妊産婦の食事				
	第10回 幼児の間食：食物アレルギーを考える				
	第11回 行事食				
	第12回 食育を考える				
	第13回 まとめ、レポート提出	（第13週で終了）			
	第14回				
	第15回				
授 業 に 対 す る 予習・復習	予習： 每実習前にオリエンテーション時の配布資料、前実習内容に目を通しておく。	復習：	レポート作成により、実習内容の理解を深めておく。		
成 績 評 価 の 方 法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（60%）、実技（20%）、授業態度（20%）				
教 科 書	実習前に資料を配布する				
参 考 文 献	授業内にて随時紹介する				
注 意 事 項	毎回2时限連続で行う。デモンストレーション・説明の後、4～5人のグループに分かれて実習を行う。必要に応じてビデオ等の教材も使用する。毎実習毎に試食しながら各自でレポートを作成し、子どもの食事のあり方について考察する。レポートは最後にまとめて提出する。グループ毎の実習となり欠席は他の学生に迷惑をかける。授業中の私語は円滑な実習のために禁止する。エプロン、三角巾を着用すること。調理、試食後にまとめるレポートは、子どもの発達をふまえて考察すること。				

科目名	社会的養護		単位数	2	担当教員	萬燈 章雄				
授業内容	社会的養護を必要としている子どもたちへの理解を深める。また、社会的養護の支援フレームについて学習するとともに、特有の課題及び特性についても理解する。そこで生活する子どもたちが本来もつ権利を守りながら、保育士としてどのように関わっていくのかを学習する。									
到達目標	1 社会的養護を必要としている子どもたちの現状を理解する。 2 社会的養護の支援フレームについて理解する。 3 支援者としての保育士の職務と倫理について理解する									
授業計画										
授業計画	第1回	オリエンテーション～「社会的養護」とは 社会的養護に携わる保育士としての基本的スタンスについて学ぶ								
	第2回	子ども観と社会的養護の歴史 子どもが歴史的にどのように扱われてきたか								
	第3回	社会的養護の仕組み また、現在の社会的養護の抱える課題について								
	第4回	児童相談所の役割について 児童相談の実際と措置制度について								
	第5回	児童虐待と社会的養護 虐待を受けてきた子供たちについて理解する								
	第6回	児童福祉施設の種類と専門職 適切な施設の選択、配置すべき専門職などを学ぶ								
	第7回	里親制度・養子縁組について なぜ今里親委託推進なのかを理解する								
	第8回	社会的養護理論① レジデンシャルソーシャルワーク、パーマネンシープランニングなど理解する								
	第9回	社会的養護理論② アタッチメント理論「子どもの安全基地」を学ぶ								
	第10回	家族再統合と施設からの自立支援に向けて 家族支援プログラム・スタートダッシュ応援事業・希望の家事業など								
	第11回	児童福祉施設での基本技術 アセスメント（ジェノグラム・エコマップ）と記録の書き方について								
	第12回	児童の権利擁護について（子どもの権利ノート） 子どもの生き立ちの整理を支援する								
	第13回	演習I 事例を使って絵と言葉で生き立ちを説明する（W&P）								
	第14回	演習II（被措置児童虐待について） 事例を使って保育士としての倫理観を考える								
	第15回	これからの社会的養護 厚生労働省通知「家庭的養護の推進について」								
授業に対する 予習・復習	予習： 事前に資料配布した場合は、課題に沿ってよく読んでおくこと。			復習： 配布した資料を読み返すとともに、メモなども含め管理を徹底すること。						
成績評価の方 法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（50%）、発表（20%）、授業態度（30%）									
教科書	『よくわかる社会的養護 第2版』（山縣文治、林浩康編、ミネルヴァ書房） その他、必要に応じプリントを配布します。									
参考文献	必要に応じ適宜紹介します。									
注意事項	どの現場においても個人情報の管理は極めて重要なファクターになります。個人情報が漏れれば少なからず处分の対象になります。そのことを踏まえ、配布する事例（実際の事例ではありません）及び資料また授業中のメモなど、その管理について日頃から常に意識し自己管理を徹底してください。 受講マナーは守り、積極的な参加を期待します。									

科 目 名	相 談 援 助	単位数	1	担当教員	為石 摩利夫																														
授 業 の 内 容	家庭の抱える問題は多様化しており、その背景も含めて理解することが相談者を受け止め、信頼関係を構築することにつながっていく。また、問題が複雑に絡み合っている場合には、専門機関との連携した取り組みも必要である。相談援助の実践において信頼される援助者となるための知識・技術を学ぶ																																		
到 達 目 標	保育現場における相談援助機能について学び、その必要性と事例を通じて対象者の理解を深める。 ・相談援助の必要性について理解する ・相談援助の対象者の理解と受け止め、専門機関との連携の必要性を理解する ・アセスメントの重要性と計画の見直しの必要性を理解する																																		
授 業 計 画	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="padding: 2px;">第 1 回</td><td style="padding: 2px;">オリエンテーション 授業の進め方と評価について</td></tr> <tr><td style="padding: 2px;">第 2 回</td><td style="padding: 2px;">相談援助の理論と意義 相談援助の理論の発展過程や意義について学ぶ</td></tr> <tr><td style="padding: 2px;">第 3 回</td><td style="padding: 2px;">相談援助の機能 相談援助に求められる機能について学ぶ</td></tr> <tr><td style="padding: 2px;">第 4 回</td><td style="padding: 2px;">相談援助とソーシャルワーク ソーシャルワークの定義</td></tr> <tr><td style="padding: 2px;">第 5 回</td><td style="padding: 2px;">保育とソーシャルワーク 保育士としての相談支援について理解する</td></tr> <tr><td style="padding: 2px;">第 6 回</td><td style="padding: 2px;">相談援助の対象 児童・保護者・地域との関わり方を理解する</td></tr> <tr><td style="padding: 2px;">第 7 回</td><td style="padding: 2px;">相談援助のプロセス I 相談援助の進め方</td></tr> <tr><td style="padding: 2px;">第 8 回</td><td style="padding: 2px;">相談援助のプロセス II 相談援助の基本的技術</td></tr> <tr><td style="padding: 2px;">第 9 回</td><td style="padding: 2px;">相談援助のプロセス III 計画・記録、評価、見直し</td></tr> <tr><td style="padding: 2px;">第 10 回</td><td style="padding: 2px;">相談援助の関係機関 関係機関との協働について理解する</td></tr> <tr><td style="padding: 2px;">第 11 回</td><td style="padding: 2px;">多様な専門職との連携 連携の意義について理解する</td></tr> <tr><td style="padding: 2px;">第 12 回</td><td style="padding: 2px;">グループワーク I 事例分析（社会資源との連携）</td></tr> <tr><td style="padding: 2px;">第 13 回</td><td style="padding: 2px;">グループワーク II 事例分析（虐待の予防と対応）</td></tr> <tr><td style="padding: 2px;">第 14 回</td><td style="padding: 2px;">グループワーク III 事例分析（障害のある子）</td></tr> <tr><td style="padding: 2px;">第 15 回</td><td style="padding: 2px;">相談援助のまとめ</td></tr> </table>					第 1 回	オリエンテーション 授業の進め方と評価について	第 2 回	相談援助の理論と意義 相談援助の理論の発展過程や意義について学ぶ	第 3 回	相談援助の機能 相談援助に求められる機能について学ぶ	第 4 回	相談援助とソーシャルワーク ソーシャルワークの定義	第 5 回	保育とソーシャルワーク 保育士としての相談支援について理解する	第 6 回	相談援助の対象 児童・保護者・地域との関わり方を理解する	第 7 回	相談援助のプロセス I 相談援助の進め方	第 8 回	相談援助のプロセス II 相談援助の基本的技術	第 9 回	相談援助のプロセス III 計画・記録、評価、見直し	第 10 回	相談援助の関係機関 関係機関との協働について理解する	第 11 回	多様な専門職との連携 連携の意義について理解する	第 12 回	グループワーク I 事例分析（社会資源との連携）	第 13 回	グループワーク II 事例分析（虐待の予防と対応）	第 14 回	グループワーク III 事例分析（障害のある子）	第 15 回	相談援助のまとめ
第 1 回	オリエンテーション 授業の進め方と評価について																																		
第 2 回	相談援助の理論と意義 相談援助の理論の発展過程や意義について学ぶ																																		
第 3 回	相談援助の機能 相談援助に求められる機能について学ぶ																																		
第 4 回	相談援助とソーシャルワーク ソーシャルワークの定義																																		
第 5 回	保育とソーシャルワーク 保育士としての相談支援について理解する																																		
第 6 回	相談援助の対象 児童・保護者・地域との関わり方を理解する																																		
第 7 回	相談援助のプロセス I 相談援助の進め方																																		
第 8 回	相談援助のプロセス II 相談援助の基本的技術																																		
第 9 回	相談援助のプロセス III 計画・記録、評価、見直し																																		
第 10 回	相談援助の関係機関 関係機関との協働について理解する																																		
第 11 回	多様な専門職との連携 連携の意義について理解する																																		
第 12 回	グループワーク I 事例分析（社会資源との連携）																																		
第 13 回	グループワーク II 事例分析（虐待の予防と対応）																																		
第 14 回	グループワーク III 事例分析（障害のある子）																																		
第 15 回	相談援助のまとめ																																		
授 業 に 対 す る 予習・復習	予習： 事前に教科書の内容を確認する。	復習：	疑問点を明確にし、基本原則とその応用について考察する。																																
成績評価の 方 法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（70%）、授業態度（30%）																																		
教 科 書	基本保育シリーズ⑤『相談援助』（松原康雄・村田典子・南野奈津子編集、中央法規出版）																																		
参 考 文 献	授業中に適宜紹介する。																																		
注 意 事 項																																			

科 目 名	家 庭 支 援 論	单 位 数	2	担 当 教 員	北澤 明子																														
授 業 の 内 容	家族、家庭のあり方が変化し、多様化した現在、保育者は家庭や地域と連携しながら、子育てを支援していくことが求められている。本講では、子育てにおける「家庭支援」の背景や目的、方法について学ぶとともに、家庭のあり方や保育者として必要な家庭支援について考えていく。																																		
到 達 目 標	① 家族の意義とその機能について説明することができる。 ② 現在の子育て家庭を取り巻く環境について説明することができる。 ③ 子育て支援の法的根拠や支援政策について説明することができる。 ④ 子育て支援の実際について学び、説明することができる。																																		
授 業 計 画	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">第 1 回</td><td style="padding: 2px;">オリエンテーション授業の進め方・参考文献の紹介等一</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第 2 回</td><td style="padding: 2px;">家庭の意義と機能</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第 3 回</td><td style="padding: 2px;">家族・家庭・子育ての歴史や文化・変遷について一国や文化による違い一</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第 4 回</td><td style="padding: 2px;">家族・家庭・子育ての歴史や文化・変遷について一我が国の家族や子育ての歴史一</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第 5 回</td><td style="padding: 2px;">現在の家庭を取り巻く状況①—図や表を読み取る—</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第 6 回</td><td style="padding: 2px;">現在の家庭を取り巻く状況②—読み取りから考える—</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第 7 回</td><td style="padding: 2px;">子育て家庭支援の必要性</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第 8 回</td><td style="padding: 2px;">現在の子どもを取り巻く状況</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第 9 回</td><td style="padding: 2px;">子育て支援の法的根拠</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第 10 回</td><td style="padding: 2px;">我が国の子育て支援・政策</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第 11 回</td><td style="padding: 2px;">子育て支援の実際①—保育所・幼稚園における子育て支援の取組—</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第 12 回</td><td style="padding: 2px;">子育て支援の実際②—地域における子育て支援の取組—</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第 13 回</td><td style="padding: 2px;">子育て支援の実際③—民間機関による支援の取組 他—</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第 14 回</td><td style="padding: 2px;">保育の場における具体的な事例紹介</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第 15 回</td><td style="padding: 2px;">まとめ—子どもを産むこと・育てるということについて考える—</td></tr> </table>					第 1 回	オリエンテーション授業の進め方・参考文献の紹介等一	第 2 回	家庭の意義と機能	第 3 回	家族・家庭・子育ての歴史や文化・変遷について一国や文化による違い一	第 4 回	家族・家庭・子育ての歴史や文化・変遷について一我が国の家族や子育ての歴史一	第 5 回	現在の家庭を取り巻く状況①—図や表を読み取る—	第 6 回	現在の家庭を取り巻く状況②—読み取りから考える—	第 7 回	子育て家庭支援の必要性	第 8 回	現在の子どもを取り巻く状況	第 9 回	子育て支援の法的根拠	第 10 回	我が国の子育て支援・政策	第 11 回	子育て支援の実際①—保育所・幼稚園における子育て支援の取組—	第 12 回	子育て支援の実際②—地域における子育て支援の取組—	第 13 回	子育て支援の実際③—民間機関による支援の取組 他—	第 14 回	保育の場における具体的な事例紹介	第 15 回	まとめ—子どもを産むこと・育てるということについて考える—
第 1 回	オリエンテーション授業の進め方・参考文献の紹介等一																																		
第 2 回	家庭の意義と機能																																		
第 3 回	家族・家庭・子育ての歴史や文化・変遷について一国や文化による違い一																																		
第 4 回	家族・家庭・子育ての歴史や文化・変遷について一我が国の家族や子育ての歴史一																																		
第 5 回	現在の家庭を取り巻く状況①—図や表を読み取る—																																		
第 6 回	現在の家庭を取り巻く状況②—読み取りから考える—																																		
第 7 回	子育て家庭支援の必要性																																		
第 8 回	現在の子どもを取り巻く状況																																		
第 9 回	子育て支援の法的根拠																																		
第 10 回	我が国の子育て支援・政策																																		
第 11 回	子育て支援の実際①—保育所・幼稚園における子育て支援の取組—																																		
第 12 回	子育て支援の実際②—地域における子育て支援の取組—																																		
第 13 回	子育て支援の実際③—民間機関による支援の取組 他—																																		
第 14 回	保育の場における具体的な事例紹介																																		
第 15 回	まとめ—子どもを産むこと・育てるということについて考える—																																		
授 業 に 対 す る 予 習・復 習	予習：出された課題は授業の予習・復習をかねるので真摯に取り組んでください。		復習：授業で配布された資料を整理し、前回の授業内容を復習すること。																																
成 績 評 価 の 方 法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（80%）、授業態度（20%）																																		
教 科 書	適宜必要な資料を配布します。																																		
参 考 文 献	『子ども・子育て白書』（内閣府） 『子どもを知る 家庭支援論【新版】』（小田豊 他編、北大路書房）																																		
注 意 事 項	・配布された資料はファイリングして（A4ファイルは各自用意すること。）毎回授業に持参してください。 前の授業で配布したものを使う場合もあるため忘れることのないようにしてください。																																		

科目名	保育内容(人間関係)		単位数	1	担当教員	土屋由				
授業の内容	<p>保育所保育指針や幼稚園教育要領の領域の一つに、人とのかかわりに関する領域「人間関係」が設けられている。講義では、以下の内容を中心に学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 領域「人間関係」に関連する社会学や発達心理学などの理論をベースとした基礎知識</li> <li>② 乳児期、3歳児、4歳児、5歳児とそれぞれの発達過程において、どのように人とのかかわりが育つか</li> <li>③ 保護者対応や保育者同士の連携も含めた保育者の果たす役割</li> </ul>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域「人間関係」を理解するのに必要な基礎知識を身につける。</li> <li>・人ととのところが深いところで結びつき、豊かなかかわりがもてるような集団の育ちがめざされる必要があることや、一人一人が十分に生かされる集団であることの大切さといった「人間関係」を捉えるのに必要な視点をもつ。</li> <li>・保育者対応や保育者同士の連携も含めた保育者の役割を理解する。</li> </ul>									
授業計画	第1回	オリエンテーション								
	第2回	自己理解と自己概念 「自分を知る」ところからはじめよう								
	第3回	社会・文化に生きる子ども								
	第4回	領域「人間関係」がめざすもの								
	第5回	領域「人間関係」の基礎知識								
	第6回	0・1・2歳児 乳児の保育における人とのかかわり								
	第7回	3歳児 保育者が居場所 ものを「欲張る」ことにも意味がある								
	第8回	4歳児 自己主張と自己抑制 幼児期のなかよしとは?								
	第9回	5歳児 園生活の充実感を支えるもの								
	第10回	かけがえのない一人一人の存在								
	第11回	保護者とのかかわり								
	第12回	保育者同士のかかわり								
	第13回	かかわりの育ちを「みる」								
	第14回	親しい人の体験が原動力になる								
	第15回	授業のまとめ								
授業に対する 予習・復習	予習： 次回の授業の範囲について、教科書に目を通すこと。		復習： 授業で扱った内容について、教科書や配布プリントに記載されている情報についても、ノートに整理して記入しておくこと。							
成績評価の方 法	<p>試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない</p> <p>筆記試験（70%）、レポート（20%）、課題（10%）</p>									
教科書	『保育内容 人間関係』（酒井幸子他著、萌文書林）									
参考文献	授業において紹介する。									
注意事項	他の受講生の意見や考えを聞くこと、また自分自身の体験とつなげて考えることで、学びを深めてほしい。									

科目名	保育内容(環境)	単位数	1	担当教員	北澤 明子																														
授業内容	本講では、様々な環境(人・物・自然・社会の事象など)とかかわる子どもの実際の姿から、身近な環境とのかかわりに関する領域「環境」の基本的な考え方について学ぶ。また、子どもが環境と主体的にかかわっていくための保育者の役割について考えていく。																																		
到達目標	① 環境を通して行う保育(教育)について説明することができる。 ② 幼稚園教育要領、保育所保育指針が示す「環境」のねらいや内容について説明することができる。 ③ 身近な環境とのかかわりが子どもにどのような意義があるのかについて考えることができる。 ④ 子どもが環境と主体的にかかわっていくための保育者の役割について考えることができる。																																		
授業計画	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">第1回</td><td style="padding: 2px;">オリエンテーション授業の進め方・参考文献等紹介ー</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第2回</td><td style="padding: 2px;">保育の基本と保育内容</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第3回</td><td style="padding: 2px;">法的に定められた「環境」に関すること・環境を通した保育(教育)について</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第4回</td><td style="padding: 2px;">保育における環境について考える①—ビデオ視聴よりー</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第5回</td><td style="padding: 2px;">保育における環境について考える②—ビデオ視聴より保育環境について班ごとに発表ー</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第6回</td><td style="padding: 2px;">保育内容・領域について</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第7回</td><td style="padding: 2px;">領域『環境』のねらいと内容について</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第8回</td><td style="padding: 2px;">身近な環境とのかかわり①—身近な自然とのかかわりについて事例から考えるー</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第9回</td><td style="padding: 2px;">身近な環境とのかかわり②—身近な自然とのかかわりについて葉っぱのワークから考えるー</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第10回</td><td style="padding: 2px;">身近な環境とのかかわり③—子どもが安心して環境とかかわるための保育者の役割とはー</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第11回</td><td style="padding: 2px;">身近な環境とのかかわり④—身近なものとのかかわりについて事例から考えるー</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第12回</td><td style="padding: 2px;">身近な環境とのかかわり⑤—身近なものとのかかわりについておもちゃのワークから考えるー</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第13回</td><td style="padding: 2px;">環境構成について①—保育室の環境構成ー</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第14回</td><td style="padding: 2px;">環境構成について②—園庭の環境構成ー</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">第15回</td><td style="padding: 2px;">環境とのかかわりについてのまとめ他</td></tr> </table>					第1回	オリエンテーション授業の進め方・参考文献等紹介ー	第2回	保育の基本と保育内容	第3回	法的に定められた「環境」に関すること・環境を通した保育(教育)について	第4回	保育における環境について考える①—ビデオ視聴よりー	第5回	保育における環境について考える②—ビデオ視聴より保育環境について班ごとに発表ー	第6回	保育内容・領域について	第7回	領域『環境』のねらいと内容について	第8回	身近な環境とのかかわり①—身近な自然とのかかわりについて事例から考えるー	第9回	身近な環境とのかかわり②—身近な自然とのかかわりについて葉っぱのワークから考えるー	第10回	身近な環境とのかかわり③—子どもが安心して環境とかかわるための保育者の役割とはー	第11回	身近な環境とのかかわり④—身近なものとのかかわりについて事例から考えるー	第12回	身近な環境とのかかわり⑤—身近なものとのかかわりについておもちゃのワークから考えるー	第13回	環境構成について①—保育室の環境構成ー	第14回	環境構成について②—園庭の環境構成ー	第15回	環境とのかかわりについてのまとめ他
第1回	オリエンテーション授業の進め方・参考文献等紹介ー																																		
第2回	保育の基本と保育内容																																		
第3回	法的に定められた「環境」に関すること・環境を通した保育(教育)について																																		
第4回	保育における環境について考える①—ビデオ視聴よりー																																		
第5回	保育における環境について考える②—ビデオ視聴より保育環境について班ごとに発表ー																																		
第6回	保育内容・領域について																																		
第7回	領域『環境』のねらいと内容について																																		
第8回	身近な環境とのかかわり①—身近な自然とのかかわりについて事例から考えるー																																		
第9回	身近な環境とのかかわり②—身近な自然とのかかわりについて葉っぱのワークから考えるー																																		
第10回	身近な環境とのかかわり③—子どもが安心して環境とかかわるための保育者の役割とはー																																		
第11回	身近な環境とのかかわり④—身近なものとのかかわりについて事例から考えるー																																		
第12回	身近な環境とのかかわり⑤—身近なものとのかかわりについておもちゃのワークから考えるー																																		
第13回	環境構成について①—保育室の環境構成ー																																		
第14回	環境構成について②—園庭の環境構成ー																																		
第15回	環境とのかかわりについてのまとめ他																																		
授業に対する 予習・復習	予習 : 『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』を読んでくること。	復習 :	前回の内容の復習をして授業に臨むこと。																																
成績評価の方 法	試験期間における定期試験 : 実施(○)する / ( )しない 筆記試験(70%)、授業態度(30%)																																		
教科書	『幼稚園教育要領解説』(文部科学省、フレーベル館) 『保育所保育指針解説』(厚生労働省、フレーベル館)																																		
参考文献	『地球市民を育てる～子どもと自然をむすぶ～』(豊泉尚美他、圭文社)																																		
注意事項	・『幼稚園教育要領解説書』『保育所保育指針解説書』を忘れずに持ってきてください。 ・その他、必要な資料やレジュメは適宜、配布します。配布されたものを1冊にファイリングして毎回の授業の際に持参してください。																																		

科目名	保育内容(言葉)		単位数	1	担当教員	浅木 尚実			
授業内容	乳幼児の言語能力の発達が、周囲の大人とのコミュニケーションから多大な影響を受けることを理解する。乳幼児の言語発達の過程を生活や遊びの事例を通して学び、発達を促す保育士の役割や保護者への援助の仕方を知る。また、子どもが楽しくことばを習得するための児童文化財の活用法を知る。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児のことばの発達過程の流れを理解する。</li> <li>・各月齢での発達過程のポイントを習得する。</li> <li>・ことばの発達を促す児童文化財についての知識や技術を習得する。</li> </ul>								
授業計画	第1回	ことばの発達と環境① 児童文化と子どもの言葉							
	第2回	ことばの発達と環境② 赤ちゃんとのコミュニケーション：いないいないばあ論							
	第3回	ことばの発達と環境③ 乳児のことばを育む：わらべうたとマザリーズ							
	第4回	ことばの発達と環境④ 1, 2歳児のことばの発達と保育士の役割							
	第5回	ことばの発達と環境⑤ 3, 4歳児のことばの発達と保育士の役割・ことばの遅れについて							
	第6回	ことばの発達と環境⑥ 5, 6歳児のことばの発達と保育士の役割							
	第7回	絵本と言葉							
	第8回	子育て支援と絵本							
	第9回	幼児の聞く力：ストーリーテリングとは? おはなしの選び方・覚え方・語り方							
	第10回	小学校準備と国語へのつながり・伝統的言語文化「昔話」の特色を学ぶ							
	第11回	おはなしを語る 演習①：おはなしを聞く							
	第12回	おはなしを語る 演習②：昔話を学ぶ							
	第13回	おはなしを語る 演習③：昔話を語る							
	第14回	おはなしを語る 演習④：語った話の振り返りをする							
	第15回	まとめ							
授業に対する 予習・復習	予習：	教科書をよく読んでくる。 前回の授業の課題を準備する。 おはなしを覚え、語れるように練習する。	復習：	講義のノートをまとめる。 おはなしの発表後、振り返りシートにまとめる。					
成績評価の方 法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（50%）発表（40%） 授業態度（10%）								
教科書	『絵本から学ぶ子どもの文化』（浅木尚実編著、同文書院）								
参考文献	『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』 『保育内容・言葉』（同文書院） その都度紹介する。								
注意事項									

科目名	音楽Ⅱ(ピアノ)	単位数	2	担当教員	大輪 公彦 他						
授業内容	音楽Ⅰ(ピアノ)で学んだ内容をもとに、教育実習や保育所実習、採用試験で重要視される子どもの歌の弾き歌いを重点的に学ぶ。各クラスを担当する約4名の教員より指導を受ける。										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽Ⅰ(ピアノ)で身につけた知識、演奏技術を更に深めることができる。</li> <li>教育実習や保育現場での実践に対応できるよう、より多くの子どものうたの弾き歌いができる。</li> <li>コードネームを用いた楽譜から、簡単な伴奏付けをすることができる。</li> </ul>										
授業計画	第1回	オリエンテーション	第16回	季節のうた 9月① 「とんぼのめがね」「つき」他							
	第2回	園生活のうた 弹き歌い① 「おはよう」「おはようのうた」他	第17回	季節のうた 9月② 「きらきら星」「どんぐりころころ」他							
	第3回	園生活のうた 弹き歌い② 「おべんとう」「おかえりのうた」他	第18回	季節のうた 10月① 「やきいもグーチーパー」「きのこ」他							
	第4回	園生活のうた 弹き歌い③ 「さよならのうた」他	第19回	季節のうた 10月② 「小さい秋みつけた」「まつぼっくり」他							
	第5回	季節のうた 4月① 他 「あくしゅでこんにちは」「せんせいとおともだち」	第20回	季節のうた 11月① 「大きなくりの木の下で」「まっかな秋」他							
	第6回	季節のうた 4月② 「チューリップ」「ちょうど」「めだかの学校」他	第21回	季節のうた 11月② 「夕やけこやけ」「たきび」他							
	第7回	季節のうた 5月① 「手をたたきましょう」「こいのぼり」他	第22回	季節のうた 12月① 「あわてんぼうのサンタクロース」他							
	第8回	季節のうた 5月② 「ぶんぶんぶん」「むすんでひらいて」他	第23回	季節のうた 12月② 「シングルベル」他							
	第9回	季節のうた 6月① 「あめふりくまのこ」「あまだれぼったん」他	第24回	季節のうた 1月① 「お正月」「雪」他							
	第10回	季節のうた 6月② 「とけいのうた」「すてきなパパ」他	第25回	季節のうた 1月② 「雪のこぼうず」「雪のぺんきやさん」他							
	第11回	季節のうた 7・8月① 「たなばたさま」「うみ」他	第26回	季節のうた 2月① 「まめまき」「」他							
	第12回	季節のうた 7・8月② 「おばけなんてないさ」「シャボン玉」他	第27回	季節のうた 2月② 「春がきた」「どこかで春が」他							
	第13回	あそびのうた① 「グーチョキバーでなにつくろう」他	第28回	季節のうた 3月① 「うれしいひなまつり」「思い出のアルバム」他							
	第14回	あそびのうた② 「とんとんとんとんひげじいさん」他	第29回	季節のうた 3月② 「さよならぼくたちのはいくえん」「一年生になったら」							
	第15回	あそびのうた③ 「むすんでひらいて」「こぶたぬきつねこ」他	第30回	コードネームを用いた伴奏づけ							
授業に 対する 予習・復習	予習： 毎日の練習を積み重ねることが上達の重要なポイントとなるため、授業に向けて各自2～3曲を選択し練習しておく。	復習：									
成績評価の 方 法	試験期間における定期試験： 実施(○)する／( )しない 発表(30%) 実技(40%)、授業態度(30%)										
教科書	『簡易伴奏による 実用 子どものうた』(田口雅夫・高崎和子共編、カワイ出版) ・必要に応じてプリントを配布する。										
参考文献											
注意事項											

科 目 名	体育（幼児体育を含む）	単位数	2	担当教員	塩崎 みづほ
授 業 の 内 容	子どもの生活は遊びが中心にあるといわれるくらい遊びによって成長し、生きていくのに必要なことを真似し学んでいきます。本講義では、子どもの発育発達の特徴を理解し、それに即した運動遊びについて学び、さらには指導法について実践的に学びます。そこでは、グループで決められた題材を用いて、ロールプレイを行います。				
到 達 目 標	① 子どもの発育発達段階に応じた運動遊びの意義とその内容を理解する ② 運動遊びの指導法について理解する ③ 幼児教育者として自ら動ける身体づくりと、体力の維持・向上に努める力を習得する				
授 業 計 画	第1回	乳幼児期の運動遊びの意義	第16回	運動遊びの実際	
	第2回	鬼ごっこについて考えよう	第17回	とび箱を使った遊び	
	第3回	豆袋を使った遊び	第18回	ボールを使った遊び	
	第4回	フープを使った遊び	第19回	巧技台を使った遊び	
	第5回	縄を使った遊び	第20回	サーキット遊び	
	第6回	マットを使った遊び	第21回	身近なものをつかった遊び	
	第7回	乳幼児の運動発達の特徴	第22回	表現遊びの指導法	
	第8回	表現遊び① —リズミカルな表現遊びを体験しよう—	第23回	運動遊び・表現遊びの指導案を作成してみよう	
	第9回	表現遊び② —シンメトリーの動きを体験しよう—	第24回	指導の実践①表現遊び	
	第10回	表現遊び③ —群の動きを創ってみよう—	第25回	指導の実践②マット遊び	
	第11回	表現遊び④ —だんだんできあがりを体験しよう—	第26回	指導の実践③巧技台を使った遊び	
	第12回	表現遊び⑤ —小作品を創ろう—	第27回	指導の実践④ボールを使った遊び	
	第13回	表現遊び⑥ —小作品の踊りこみをしよう—	第28回	指導の実践⑤とび箱を使った遊び	
	第14回	表現遊び⑦ —発表会—	第29回	絵本を使った表現発表	
	第15回	発表会の振り返り 授業のまとめ	第30回	幼児期の運動遊びの必要性についてディスカッションしよう	
授 業 に 対 す る 予習・復習	予習： 次回に備え教科書の該当する箇所を熟読していく。 ストレッチ等を日々の生活に取り入れ、実践する。	復習：	本時行った活動内容をノートにまとめる。		
成 績 評 価 の 方 法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（20%）、課題（10%）、作品（10%）、発表（10%） 実技（20%）、授業態度（30%）				
教 科 書	『子どもの運動・表現遊び』（宮下恭子編、大学図書出版）				
参 考 文 献	『保育と幼児期の運動あそび』（岩崎洋子編、萌文書林）『0歳からはじめるうごきづくり』（太田昌秀他著、幻冬舎ルネサンス）『保育の中の運動あそび』（石井美晴他編、萌文書林） 『0～5歳児のたのしい運動あそび』（黒井信隆・山本秀人編著、いかだ社）				
注 意 事 項	実技の際は、学校指定の体操着を必ず着用すること 出席を重視する 意欲をもって積極的に取り組む姿勢を評価する				

科目名	乳児保育	単位数	2	担当教員	伊能 恵子																																																																																										
授業内容	乳幼児期における、発達の姿を心・体・生活等といった細かい項目に分けて明確に捉えることを目標とする。特に保育現場における援助方法の概要を提供することにより、乳幼児期の大切さと保育の重要性の実感を高め、理論と実践を結びつけることを本講義のねらいとする。そのため、乳幼児期の心・体の発達と、その発達を支える保育援助の実践との理解を以下の授業計画に沿って深めていきたい。 また、保育士の専門性が求められている昨今、保育士資質向上へ向けて、学生個人個人が目標に照らし合わせて次の学びの第一歩として活用できるよう、講義内容を個別の添削指導により支援していく。																																																																																														
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>乳幼児の発達を支える理論と、乳幼児期を支える保育現場の実践とを結びつけることができる。</li> <li>学生には毎回の講義におけるレポートを義務付けるため、毎回の講義において定めた各内容を受講者全員が理解できる。</li> </ul>																																																																																														
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td><td>生涯発達という捉え方</td><td>第16回</td><td colspan="3">発達のながれ</td></tr> <tr> <td>第2回</td><td>乳幼児期（1）発達の法則・考え方</td><td>第17回</td><td colspan="3">人との関わりの発達と保育援助</td></tr> <tr> <td>第3回</td><td>乳幼児期（2）新生児期と反射</td><td>第18回</td><td colspan="3">保育所保育指針と保育援助</td></tr> <tr> <td>第4回</td><td>乳幼児期（3）新生児・乳児期の発達</td><td>第19回</td><td colspan="3">「養護」と保育援助（1）保育所保育指針より</td></tr> <tr> <td>第5回</td><td>乳幼児期（4）食事</td><td>第20回</td><td colspan="3">「養護」と保育援助（2）安全管理の視点より</td></tr> <tr> <td>第6回</td><td>発達の姿</td><td>第21回</td><td colspan="3">「教育」と保育援助</td></tr> <tr> <td>第7回</td><td>睡眠の発達と保育援助</td><td>第22回</td><td colspan="3">乳児期の母子相互作用</td></tr> <tr> <td>第8回</td><td>視覚の発達の保育援助</td><td>第23回</td><td colspan="3">乳児期の重要性（1）乳幼児期の保育</td></tr> <tr> <td>第9回</td><td>聴覚の発達と保育援助</td><td>第24回</td><td colspan="3">乳児期の重要性（2）乳幼児期の脳</td></tr> <tr> <td>第10回</td><td>知覚の発達と保育援助</td><td>第25回</td><td colspan="3">乳児期の保育援助（1）「人間」的発達の契機</td></tr> <tr> <td>第11回</td><td>情緒の発達と保育援助</td><td>第26回</td><td colspan="3">乳児期の保育援助（2）あそびの視点</td></tr> <tr> <td>第12回</td><td>言葉の発達と保育援助（1）言葉・語彙の発達</td><td>第27回</td><td colspan="3">保護者支援</td></tr> <tr> <td>第13回</td><td>言葉の発達と保育援助（2）絵本の力</td><td>第28回</td><td colspan="3">保育者としての資質（1）現場で求められる資質</td></tr> <tr> <td>第14回</td><td>認知の発達と保育援助</td><td>第29回</td><td colspan="3">保育者としての資質（2）ビジネス・ライティング</td></tr> <tr> <td>第15回</td><td>まとめ（1）</td><td>第30回</td><td colspan="3">まとめ（2）</td></tr> </table>					第1回	生涯発達という捉え方	第16回	発達のながれ			第2回	乳幼児期（1）発達の法則・考え方	第17回	人との関わりの発達と保育援助			第3回	乳幼児期（2）新生児期と反射	第18回	保育所保育指針と保育援助			第4回	乳幼児期（3）新生児・乳児期の発達	第19回	「養護」と保育援助（1）保育所保育指針より			第5回	乳幼児期（4）食事	第20回	「養護」と保育援助（2）安全管理の視点より			第6回	発達の姿	第21回	「教育」と保育援助			第7回	睡眠の発達と保育援助	第22回	乳児期の母子相互作用			第8回	視覚の発達の保育援助	第23回	乳児期の重要性（1）乳幼児期の保育			第9回	聴覚の発達と保育援助	第24回	乳児期の重要性（2）乳幼児期の脳			第10回	知覚の発達と保育援助	第25回	乳児期の保育援助（1）「人間」的発達の契機			第11回	情緒の発達と保育援助	第26回	乳児期の保育援助（2）あそびの視点			第12回	言葉の発達と保育援助（1）言葉・語彙の発達	第27回	保護者支援			第13回	言葉の発達と保育援助（2）絵本の力	第28回	保育者としての資質（1）現場で求められる資質			第14回	認知の発達と保育援助	第29回	保育者としての資質（2）ビジネス・ライティング			第15回	まとめ（1）	第30回	まとめ（2）		
第1回	生涯発達という捉え方	第16回	発達のながれ																																																																																												
第2回	乳幼児期（1）発達の法則・考え方	第17回	人との関わりの発達と保育援助																																																																																												
第3回	乳幼児期（2）新生児期と反射	第18回	保育所保育指針と保育援助																																																																																												
第4回	乳幼児期（3）新生児・乳児期の発達	第19回	「養護」と保育援助（1）保育所保育指針より																																																																																												
第5回	乳幼児期（4）食事	第20回	「養護」と保育援助（2）安全管理の視点より																																																																																												
第6回	発達の姿	第21回	「教育」と保育援助																																																																																												
第7回	睡眠の発達と保育援助	第22回	乳児期の母子相互作用																																																																																												
第8回	視覚の発達の保育援助	第23回	乳児期の重要性（1）乳幼児期の保育																																																																																												
第9回	聴覚の発達と保育援助	第24回	乳児期の重要性（2）乳幼児期の脳																																																																																												
第10回	知覚の発達と保育援助	第25回	乳児期の保育援助（1）「人間」的発達の契機																																																																																												
第11回	情緒の発達と保育援助	第26回	乳児期の保育援助（2）あそびの視点																																																																																												
第12回	言葉の発達と保育援助（1）言葉・語彙の発達	第27回	保護者支援																																																																																												
第13回	言葉の発達と保育援助（2）絵本の力	第28回	保育者としての資質（1）現場で求められる資質																																																																																												
第14回	認知の発達と保育援助	第29回	保育者としての資質（2）ビジネス・ライティング																																																																																												
第15回	まとめ（1）	第30回	まとめ（2）																																																																																												
授業に対する 予習・復習	予習：毎回の講義の際に、次回の講義における予習課題を明示し、次回の講義の際提出を求める。	復習：	講義終了後、講義の理解を深め、理解の度合いを学生個人個人が確認でき、習得に役立てるための復習課題を課す。																																																																																												
成績評価の方 法	試験期間における定期試験：実施（）する／（○）しない レポート（50%）、課題（50%）、																																																																																														
教科書	授業中に追って指示する																																																																																														
参考文献	『保育士養成講座：発達心理学』（全国社会福祉協議会）、『実習育児学』（吉岡毅著、日本小児医事出版） 『保育と保健』（日本保育保健協議会）、『幼児教育と脳』（澤口俊之著、文芸春秋）、 『子どもの脳の発達臨界期・敏感期』（榎原洋一著、講談社）																																																																																														
注意事項																																																																																															

科目名	障害児保育	単位数	2	担当教員	齊藤 和良																																																																																											
授業内容	この講義では、障害児保育の基本理念と意義を学び、知的障害や発達障害などの各障害の原因や特性及び保育上の留意点について理解を深め、障害児の発達の特性や問題点について論究していきます。さらに障害児の援助方法や家庭支援の在り方、医療や福祉などの関係機関との連携について学習します。																																																																																															
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解できる。</li> <li>・様々な障害について理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について工夫できる。</li> <li>・障害のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解できる。</li> <li>・障害のある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解できる。</li> </ul>																																																																																															
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td><td>ガイダンス 障害児保育とは</td><td>第16回</td><td colspan="3">発達障害児の理解と援助 ① 広汎性発達障害の分類・定義・心理的特徴</td></tr> <tr> <td>第2回</td><td>障害の理解 障害の概念、各障害の定義と分類</td><td>第17回</td><td colspan="3">発達障害児の理解と援助 ② 学習障害(LD)、注意欠陥多動性障害(ADHD)の定義と特徴</td></tr> <tr> <td>第3回</td><td>障害者待遇の歴史的変遷 障害児・者の歴史的変遷と障害児の保育・教育</td><td>第18回</td><td colspan="3">障害児保育の実際 ① 保育課程に基づく指導計画の作成と記録及び評価 ①</td></tr> <tr> <td>第4回</td><td>障害児保育を支える理念 ノーマライゼーション、統合保育、インクルージョン</td><td>第19回</td><td colspan="3">障害児保育の実際 ② 保育課程に基づく指導計画の作成と記録及び評価 ②</td></tr> <tr> <td>第5回</td><td>障害児保育の意義と基本 障害児と健常児 共に育つことの意味</td><td>第20回</td><td colspan="3">障害児保育の実際 ③ 個々の発達を促す生活や遊びの環境</td></tr> <tr> <td>第6回</td><td>特別支援教育・障害児保育の対象 特別支援教育の対象と目的、教育の場</td><td>第21回</td><td colspan="3">障害児保育の実際 ④ 子ども同士のかかわりあいと育ち合い</td></tr> <tr> <td>第7回</td><td>視覚障害児の理解と援助 視覚障害の定義と分類、視覚障害児の心理的特徴</td><td>第22回</td><td colspan="3">障害児保育の実際 ⑤ 職員間の協働</td></tr> <tr> <td>第8回</td><td>聴覚障害児の理解と援助 聴覚障害の定義と分類、聴覚障害児の心理的援助</td><td>第23回</td><td colspan="3">障害児をもつ親の理解と家庭支援 ① 障害児の親の受容と受容過程、養育態度</td></tr> <tr> <td>第9回</td><td>肢体不自由児の理解と援助 肢体不自由児の分類と原因、脳性まひ児の分類</td><td>第24回</td><td colspan="3">障害児をもつ親の理解と家庭支援 ② 家庭保育と家族に対する支援</td></tr> <tr> <td>第10回</td><td>知的障害児の理解と援助 ① IQとは、 知的障害の定義・分類・原因</td><td>第25回</td><td colspan="3">障害児をもつ親の理解と家庭支援 ③ 地域の専門機関等との連携</td></tr> <tr> <td>第11回</td><td>知的障害児の理解と援助 ② 知的障害児に対する支援</td><td>第26回</td><td colspan="3">障害児をもつ親の理解と家庭支援 ④ 小学校との連携</td></tr> <tr> <td>第12回</td><td>言語障害児の理解と援助 言語障害の定義と分類、言語指導</td><td>第27回</td><td colspan="3">障害児保育にかかわる現状と課題 ① 保健・医療における現状と課題</td></tr> <tr> <td>第13回</td><td>情緒障害児の理解と援助 ① 情緒障害の分類、選択性缄默症やチックの心理的特徴</td><td>第28回</td><td colspan="3">障害児保育にかかわる現状と課題 ② 福祉・教育における現状と課題</td></tr> <tr> <td>第14回</td><td>情緒障害児の理解と援助 ② 外傷性ストレス障害(PTSD)、自閉症スペクトラム</td><td>第29回</td><td colspan="3">障害児保育にかかわる現状と課題 ③ 支援の場の広がりとつながり</td></tr> <tr> <td>第15回</td><td>病弱、身体虚弱児の理解と援助 病弱・身体虚弱の定義、病弱児の心理的特徴と支援</td><td>第30回</td><td colspan="3" rowspan="6">障害児保育の今後の在り方</td></tr> </table>						第1回	ガイダンス 障害児保育とは	第16回	発達障害児の理解と援助 ① 広汎性発達障害の分類・定義・心理的特徴			第2回	障害の理解 障害の概念、各障害の定義と分類	第17回	発達障害児の理解と援助 ② 学習障害(LD)、注意欠陥多動性障害(ADHD)の定義と特徴			第3回	障害者待遇の歴史的変遷 障害児・者の歴史的変遷と障害児の保育・教育	第18回	障害児保育の実際 ① 保育課程に基づく指導計画の作成と記録及び評価 ①			第4回	障害児保育を支える理念 ノーマライゼーション、統合保育、インクルージョン	第19回	障害児保育の実際 ② 保育課程に基づく指導計画の作成と記録及び評価 ②			第5回	障害児保育の意義と基本 障害児と健常児 共に育つことの意味	第20回	障害児保育の実際 ③ 個々の発達を促す生活や遊びの環境			第6回	特別支援教育・障害児保育の対象 特別支援教育の対象と目的、教育の場	第21回	障害児保育の実際 ④ 子ども同士のかかわりあいと育ち合い			第7回	視覚障害児の理解と援助 視覚障害の定義と分類、視覚障害児の心理的特徴	第22回	障害児保育の実際 ⑤ 職員間の協働			第8回	聴覚障害児の理解と援助 聴覚障害の定義と分類、聴覚障害児の心理的援助	第23回	障害児をもつ親の理解と家庭支援 ① 障害児の親の受容と受容過程、養育態度			第9回	肢体不自由児の理解と援助 肢体不自由児の分類と原因、脳性まひ児の分類	第24回	障害児をもつ親の理解と家庭支援 ② 家庭保育と家族に対する支援			第10回	知的障害児の理解と援助 ① IQとは、 知的障害の定義・分類・原因	第25回	障害児をもつ親の理解と家庭支援 ③ 地域の専門機関等との連携			第11回	知的障害児の理解と援助 ② 知的障害児に対する支援	第26回	障害児をもつ親の理解と家庭支援 ④ 小学校との連携			第12回	言語障害児の理解と援助 言語障害の定義と分類、言語指導	第27回	障害児保育にかかわる現状と課題 ① 保健・医療における現状と課題			第13回	情緒障害児の理解と援助 ① 情緒障害の分類、選択性缄默症やチックの心理的特徴	第28回	障害児保育にかかわる現状と課題 ② 福祉・教育における現状と課題			第14回	情緒障害児の理解と援助 ② 外傷性ストレス障害(PTSD)、自閉症スペクトラム	第29回	障害児保育にかかわる現状と課題 ③ 支援の場の広がりとつながり			第15回	病弱、身体虚弱児の理解と援助 病弱・身体虚弱の定義、病弱児の心理的特徴と支援	第30回	障害児保育の今後の在り方		
第1回	ガイダンス 障害児保育とは	第16回	発達障害児の理解と援助 ① 広汎性発達障害の分類・定義・心理的特徴																																																																																													
第2回	障害の理解 障害の概念、各障害の定義と分類	第17回	発達障害児の理解と援助 ② 学習障害(LD)、注意欠陥多動性障害(ADHD)の定義と特徴																																																																																													
第3回	障害者待遇の歴史的変遷 障害児・者の歴史的変遷と障害児の保育・教育	第18回	障害児保育の実際 ① 保育課程に基づく指導計画の作成と記録及び評価 ①																																																																																													
第4回	障害児保育を支える理念 ノーマライゼーション、統合保育、インクルージョン	第19回	障害児保育の実際 ② 保育課程に基づく指導計画の作成と記録及び評価 ②																																																																																													
第5回	障害児保育の意義と基本 障害児と健常児 共に育つことの意味	第20回	障害児保育の実際 ③ 個々の発達を促す生活や遊びの環境																																																																																													
第6回	特別支援教育・障害児保育の対象 特別支援教育の対象と目的、教育の場	第21回	障害児保育の実際 ④ 子ども同士のかかわりあいと育ち合い																																																																																													
第7回	視覚障害児の理解と援助 視覚障害の定義と分類、視覚障害児の心理的特徴	第22回	障害児保育の実際 ⑤ 職員間の協働																																																																																													
第8回	聴覚障害児の理解と援助 聴覚障害の定義と分類、聴覚障害児の心理的援助	第23回	障害児をもつ親の理解と家庭支援 ① 障害児の親の受容と受容過程、養育態度																																																																																													
第9回	肢体不自由児の理解と援助 肢体不自由児の分類と原因、脳性まひ児の分類	第24回	障害児をもつ親の理解と家庭支援 ② 家庭保育と家族に対する支援																																																																																													
第10回	知的障害児の理解と援助 ① IQとは、 知的障害の定義・分類・原因	第25回	障害児をもつ親の理解と家庭支援 ③ 地域の専門機関等との連携																																																																																													
第11回	知的障害児の理解と援助 ② 知的障害児に対する支援	第26回	障害児をもつ親の理解と家庭支援 ④ 小学校との連携																																																																																													
第12回	言語障害児の理解と援助 言語障害の定義と分類、言語指導	第27回	障害児保育にかかわる現状と課題 ① 保健・医療における現状と課題																																																																																													
第13回	情緒障害児の理解と援助 ① 情緒障害の分類、選択性缄默症やチックの心理的特徴	第28回	障害児保育にかかわる現状と課題 ② 福祉・教育における現状と課題																																																																																													
第14回	情緒障害児の理解と援助 ② 外傷性ストレス障害(PTSD)、自閉症スペクトラム	第29回	障害児保育にかかわる現状と課題 ③ 支援の場の広がりとつながり																																																																																													
第15回	病弱、身体虚弱児の理解と援助 病弱・身体虚弱の定義、病弱児の心理的特徴と支援	第30回	障害児保育の今後の在り方																																																																																													
授業に対する予習・復習	予習： シラバスに沿って、授業内容を教科書やインターネット等で調べ、あらかじめ把握しておくこと。	復習： 授業で指摘した問題点や要点をまとめる。																																																																																														
成績評価の方 法	試験期間における定期試験： 実施 (○) する／ ( ) しない 筆記試験 (50%)、課題 (30%)、授業態度 (20%)																																																																																															
教科書	『障害児保育 改訂版』(佐藤泰正・塙和明編、学芸図書)																																																																																															
参考文献	授業内で隨時紹介。																																																																																															
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中の私語・携帯電話の使用・飲食は厳禁。</li> <li>・決められた座席で授業を受ける。</li> </ul>																																																																																															

科 目 名	保 育 所 実 習 I	単位数	2	担当教員	土屋 由	
授 業 の 内 容	保育所実習Iは、保育所実習のうち前期実習にあたり、実習の段階としては「見学・観察実習」となる。前期実習では、保育所の役割と機能を理解する、子どもの発達や援助への理解を深める、保育内容や環境への理解を深める、保育の計画や記録・省察による保育の実際への理解を深めるといった内容を中心に学ぶ。					
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所の役割と機能を把握し、子どもの観察とその記録により子ども理解を深める。</li> <li>・保育の計画に基づく保育内容や保育環境を理解する。</li> <li>・保育士の役割と職業倫理を理解する。</li> </ul>					
授 業 計 画	<p>前期保育所実習は、原則として第2学年の2月に実施する（2週間）。</p> <p>見学・観察実習の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所の役割と機能             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育所の生活と一日の流れ</li> <li>(2) 保育所保育指針の理解と保育の展開</li> </ol> </li> <li>2. 子ども理解             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子どもの観察とその記録による理解</li> <li>(2) 子どもの発達過程の理解</li> <li>(3) 子どもへの援助やかかわり</li> </ol> </li> <li>3. 保育内容・保育環境             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育の計画に基づく保育内容</li> <li>(2) 子どもの発達過程に応じた保育内容</li> <li>(3) 子どもの生活や遊びと保育環境</li> <li>(4) 子どもの健康と安全</li> </ol> </li> <li>4. 保育の計画、観察、記録             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育課程と指導計画の理解と活用</li> <li>(2) 記録に基づく省察・自己評価</li> </ol> </li> <li>5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育士の業務内容</li> <li>(2) 職員間の役割分担や連携</li> <li>(3) 保育士の役割と職業倫理</li> </ol> </li> </ol>					
授 業 に 対 す る 予習・復習	予習： 実習に向けて、必要な準備を行うこと。		復習： 実習の内容を振り返り、課題を明確にすること。			
成績評価の方 法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない</p> <p>実習施設による実習評価（50%）、実習日誌（30%）、実習課題（20%）</p>					
教 科 書	『実習の手引き』（実習委員会）、『保育所保育指針』					
参 考 文 献	授業において紹介する。					
注 意 事 項	実習に参加する学生は、心身ともに健康であり、学内における教科の履修状況・出席・学習態度が良好でなければならない。常に自分自身を見つめ直し、保育者になるための努力を続けることが求められる。					

科 目 名	施 設 実 習 I	単位数	2	担当教員	近喰晴子・秋山展子				
授 業 の 内 容	施設実習 I は、保育所以外の児童福祉施設と知的障がい者施設で行われる実習である。本学の主な実習施設として、乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設、知的障がい者支援施設などがある。原則として、11日間施設に宿泊又は通勤し、利用者と生活をともにしながら実習を行う。								
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前準備をしっかりと行い、実習施設について理解する。</li> <li>利用者一人一人への適切な支援のあり方を習得する。</li> <li>施設の機能を理解する。</li> </ul>								
授 業 計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習施設の一日の生活の流れを知る。</li> <li>保育者の一日の職務を知る。</li> <li>利用者の一日の過ごし方や活動内容を学ぶ。</li> <li>自由時間の過ごし方やレクレーションについて学ぶ。</li> <li>衣食住に関する支援の実際や配慮事項について学ぶ。</li> <li>日中活動における支援のあり方について学ぶ。</li> <li>福祉施設における保育者の役割について学ぶ。</li> <li>福祉施設内のチームワークのあり方について学ぶ。</li> <li>施設の機能について多様な視点から学ぶ。</li> <li>福祉事務所、児童相談所など他機関との連携について学ぶ。</li> <li>利用者や施設について総合的に学び、実習を振り返る。</li> </ul> <p style="text-align: right;">以上 11 日間の学外実習をする。</p>								
授 業 に 対 す る 予習・復習	予習： 事前指導の受講が必須。	復習：							
成績評価の 方 法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 実習園評価（50%）、実習記録（30%）、実習課題（20%）								
教 科 書									
参 考 文 献									
注 意 事 項	施設実習派遣には、「福祉施設実習研究 I」の履修が必要条件である。								

科目名	保育所実習Ⅱ	単位数	2	担当教員	土屋由
授業内容	保育所実習Ⅱは、保育所実習Ⅰでの学びを踏まえ、保育者として必要な資質・能力・技術を習得すること、さらには子どもの保育及び保護者・家庭への支援について総合的に学ぶ。実習の段階としては「参加・責任実習」であり、子どもの生活や発達へのかかわりを更に深め、保育者として職務内容や職業倫理についても理解を深めることが必要である。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの心身の状態や活動の観察により保育を理解する。</li> <li>・保育士の動きや実践の観察と、作成した指導計画に基づく保育実践と評価をおこなう。</li> <li>・保護者への支援と、地域の子育て家庭への支援を理解する。</li> </ul>				
授業計画	<p>後期保育所実習は、原則として第3学年の9月（2週間）に実施する。</p> <p>参加・責任実習の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所の役割や機能の具体的展開             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 養護と教育が一体となって行われる保育</li> <li>(2) 保育所の社会的役割と責任</li> </ol> </li> <li>2. 観察に基づく保育理解             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子どもの心身の状態や活動の観察</li> <li>(2) 保育者の動きや実践の観察</li> <li>(3) 保育所の生活の流れや展開の把握</li> </ol> </li> <li>3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会などの連携             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解</li> <li>(2) 入所している子どもの保護者支援と地域の子育て家庭への支援</li> <li>(3) 地域社会との連携</li> </ol> </li> <li>4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解</li> <li>(2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価</li> </ol> </li> <li>5. 保育士の業務と職業倫理             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 多様な保育の展開と保育士の業務</li> <li>(2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理</li> </ol> </li> <li>6. 自己の課題の明確化</li> </ol>				
授業に対する予習・復習	予習： 実習に向けて、指導計画の作成など必要な準備を行うこと。	復習： 実習の内容を振り返り、課題を明確にすること。			
成績評価の方 法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（○）しない 実習施設による評価（50%）、実習日誌（30%）、実習課題（20%）				
教科書	『実習の手引き』（実習委員会）、『保育所保育指針』				
参考文献	授業にて紹介する。				
注意事項	保育に関連する教科書・参考文献を読む、また遊びの具体例などについて情報を集めて習熟しておくなど、実習に向けて積極的に自己学習のプランを立て実行すること。				

科目名	保育所実習研究Ⅰ	単位数	1	担当教員	土屋由																														
授業内容	保育所実習研究は、前期保育所実習（2年次2月）の事前事後指導である。事前指導では、保育所実習の意義や目的を理解する、実習課題を明確にする、実習記録の意義や記録方法・指導計画を学ぶなど、実習に関する必要な知識と心構えを身につけることを目的とする。事後指導では、実習に対する自己評価・反省を求め、後期保育所実習に向けての課題を明らかにし、前期実習から後期実習へと保育についての学びを深めていくよう必要な準備を行っていく。																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育所実習の意義や目的を理解し、実習課題を明確にする。</li> <li>実習記録の意義を理解し、記録方法を身につける。</li> <li>実習に関する必要な知識と心構えを身につける。</li> </ul>																																		
授業計画	<table border="1"> <tr><td>第1回</td><td>オリエンテーション</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>保育所実習の意義・目的の理解</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>前期実習の内容の理解</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>保育所についての理解</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>実習の心構え</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>実習に必要な書類の作成①</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>実習に必要な書類の作成②</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>実習課題を明らかにする</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>実習記録の意義の理解</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>実習記録の実際と方法①</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>実習記録の実際と方法②</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>実習に必要な実技の確認</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>オリエンテーションと実習中の心得</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>実習内容の振り返りとまとめ</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>後期保育所実習への課題を明確にする</td></tr> </table>					第1回	オリエンテーション	第2回	保育所実習の意義・目的の理解	第3回	前期実習の内容の理解	第4回	保育所についての理解	第5回	実習の心構え	第6回	実習に必要な書類の作成①	第7回	実習に必要な書類の作成②	第8回	実習課題を明らかにする	第9回	実習記録の意義の理解	第10回	実習記録の実際と方法①	第11回	実習記録の実際と方法②	第12回	実習に必要な実技の確認	第13回	オリエンテーションと実習中の心得	第14回	実習内容の振り返りとまとめ	第15回	後期保育所実習への課題を明確にする
第1回	オリエンテーション																																		
第2回	保育所実習の意義・目的の理解																																		
第3回	前期実習の内容の理解																																		
第4回	保育所についての理解																																		
第5回	実習の心構え																																		
第6回	実習に必要な書類の作成①																																		
第7回	実習に必要な書類の作成②																																		
第8回	実習課題を明らかにする																																		
第9回	実習記録の意義の理解																																		
第10回	実習記録の実際と方法①																																		
第11回	実習記録の実際と方法②																																		
第12回	実習に必要な実技の確認																																		
第13回	オリエンテーションと実習中の心得																																		
第14回	実習内容の振り返りとまとめ																																		
第15回	後期保育所実習への課題を明確にする																																		
授業に対する予習・復習	予習： 実習に向けて、必要な準備を行うこと。		復習： 実習の内容を振り返り、課題を明確にすること。																																
成績評価の方 法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題・レポート（60%）、授業態度（30%）、手続き（10%）																																		
教科書	『実習の手引き』（実習委員会）、『保育所保育指針』 『基本保育シリーズ㉚ 保育実習』（近喰晴子、寅屋壽廣、松田純子 編、中央法規出版）																																		
参考文献	授業において紹介する。																																		
注意事項	授業では、保育園での子どもの生活や実際の実習内容のイメージがもてるよう、視聴覚教材やワーク・シートを活用する。実習に関する知識を身につけ、必要な準備を進めるために、原則として欠席はしないこと。																																		

科 目 名	福 祉 施 設 実 習 研 究 I	単 位 数	1	担 当 教 員	近 喰 晴 子・秋 山 展 子																														
授 業 の 内 容	保育所を除く児童福祉施設を中心とした実習準備のための授業である。実習の目的や意義、実習内容等福祉施設実習に必要な知識や技能を学ぶ。また、福祉施設利用者の権利擁護、施設職員としての倫理観、実習生としての勤務のあり方についても学ぶ。実習に必要な書類の提出のほか実習施設から届けられる様々な情報も授業時に伝える。																																		
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の種別、それぞれの機能について理解する。</li> <li>施設の種別ごとの利用者について理解する。</li> <li>施設実習に必要な知識や技能を身につける。</li> </ul>																																		
授 業 計 画	<table border="1"> <tr> <td>第 1 回</td><td>施設実習の位置づけ、意義について 実習申込書（誓約書）の配布</td></tr> <tr> <td>第 2 回</td><td>実習の要件、実習の形態、実習中に必要とされる事項 実習申込書の提出</td></tr> <tr> <td>第 3 回</td><td>養育を必要とする福祉施設における実習</td></tr> <tr> <td>第 4 回</td><td>障がいをもつ人たちのための福祉施設での実習</td></tr> <tr> <td>第 5 回</td><td>実習希望調査 配当資料の提出</td></tr> <tr> <td>第 6 回</td><td>養護系福祉施設における実習内容</td></tr> <tr> <td>第 7 回</td><td>障がいをもつ方が利用する福祉施設における実習内容</td></tr> <tr> <td>第 8 回</td><td>実習課題について</td></tr> <tr> <td>第 9 回</td><td>実習書類の記入と提出</td></tr> <tr> <td>第 10 回</td><td>実習施設におけるオリエンテーションについて</td></tr> <tr> <td>第 11 回</td><td>実習施設研究</td></tr> <tr> <td>第 12 回</td><td>実習日誌の書き方</td></tr> <tr> <td>第 13 回</td><td>実習書類の確認 細菌検査、実習施設に提出するレポートや誓約書等</td></tr> <tr> <td>第 14 回</td><td>実習直前指導、各種報告書の準備</td></tr> <tr> <td>第 15 回</td><td>実習評価、個別面談</td></tr> </table>					第 1 回	施設実習の位置づけ、意義について 実習申込書（誓約書）の配布	第 2 回	実習の要件、実習の形態、実習中に必要とされる事項 実習申込書の提出	第 3 回	養育を必要とする福祉施設における実習	第 4 回	障がいをもつ人たちのための福祉施設での実習	第 5 回	実習希望調査 配当資料の提出	第 6 回	養護系福祉施設における実習内容	第 7 回	障がいをもつ方が利用する福祉施設における実習内容	第 8 回	実習課題について	第 9 回	実習書類の記入と提出	第 10 回	実習施設におけるオリエンテーションについて	第 11 回	実習施設研究	第 12 回	実習日誌の書き方	第 13 回	実習書類の確認 細菌検査、実習施設に提出するレポートや誓約書等	第 14 回	実習直前指導、各種報告書の準備	第 15 回	実習評価、個別面談
第 1 回	施設実習の位置づけ、意義について 実習申込書（誓約書）の配布																																		
第 2 回	実習の要件、実習の形態、実習中に必要とされる事項 実習申込書の提出																																		
第 3 回	養育を必要とする福祉施設における実習																																		
第 4 回	障がいをもつ人たちのための福祉施設での実習																																		
第 5 回	実習希望調査 配当資料の提出																																		
第 6 回	養護系福祉施設における実習内容																																		
第 7 回	障がいをもつ方が利用する福祉施設における実習内容																																		
第 8 回	実習課題について																																		
第 9 回	実習書類の記入と提出																																		
第 10 回	実習施設におけるオリエンテーションについて																																		
第 11 回	実習施設研究																																		
第 12 回	実習日誌の書き方																																		
第 13 回	実習書類の確認 細菌検査、実習施設に提出するレポートや誓約書等																																		
第 14 回	実習直前指導、各種報告書の準備																																		
第 15 回	実習評価、個別面談																																		
授 業 に 対 す る 予習・復習	予習： 生活支援に必要とされる生活技術の確認 実習施設研究 障がいや病気に対する知識 養護を必要とする乳幼児の実態や社会の状況	復習： 福祉系、養護系テキスト等の熟読 児童福祉法や関連法規の復習																																	
成 績 評 価 の 方 法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（50%）、課題（20%）、授業態度（20%）、実習書類提出（10%）																																		
教 科 書	『福祉施設実習ハンドブック』（岡本幹彦・神戸賢次・喜多一憲・児玉俊郎 編、株式会社みらい）																																		
参 考 文 献																																			
注 意 事 項																																			

科目名	保育所実習研究Ⅱ	単位数	1	担当教員	土屋由																														
授業の内容	保育所実習研究Ⅱは、後期保育所実習（3年次9月）の事前事後指導である。事前指導では、後期保育所実習の目的や内容を理解すること、実習課題を明確にすること、指導計画の作成や実習に必要な実技を確認することを行っていく。事後指導では、実習の総括と自己評価を求め、実習報告会などの振り返りの場を通して、保育についての課題を明確にしていく。																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後期保育所実習の目的や内容を理解し、実習課題を明確にする。</li> <li>・指導計画の立案に必要な知識を身につける。</li> <li>・実習の総括と自己評価をおこない、自己の課題を明確にする。</li> </ul>																																		
授業計画	<table border="1"> <tr><td>第1回</td><td>後期実習の目的・内容の理解</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>実習に必要な書類の作成③</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>実習に必要な書類の作成④</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>実習課題を明らかにする</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>指導案作成上の基本の確認</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>指導案の立案①幼児クラス主活動</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>指導案の立案②幼児クラス生活場面</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>指導案の立案③未満児クラスの場合</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>指導案の立案④未満児クラスの場合</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>実習に必要な実技の確認</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>実習記録の実際と方法</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>実習内容の振り返りとまとめ</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>実習報告会の準備</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>実習報告会</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>実習の総括</td></tr> </table>					第1回	後期実習の目的・内容の理解	第2回	実習に必要な書類の作成③	第3回	実習に必要な書類の作成④	第4回	実習課題を明らかにする	第5回	指導案作成上の基本の確認	第6回	指導案の立案①幼児クラス主活動	第7回	指導案の立案②幼児クラス生活場面	第8回	指導案の立案③未満児クラスの場合	第9回	指導案の立案④未満児クラスの場合	第10回	実習に必要な実技の確認	第11回	実習記録の実際と方法	第12回	実習内容の振り返りとまとめ	第13回	実習報告会の準備	第14回	実習報告会	第15回	実習の総括
第1回	後期実習の目的・内容の理解																																		
第2回	実習に必要な書類の作成③																																		
第3回	実習に必要な書類の作成④																																		
第4回	実習課題を明らかにする																																		
第5回	指導案作成上の基本の確認																																		
第6回	指導案の立案①幼児クラス主活動																																		
第7回	指導案の立案②幼児クラス生活場面																																		
第8回	指導案の立案③未満児クラスの場合																																		
第9回	指導案の立案④未満児クラスの場合																																		
第10回	実習に必要な実技の確認																																		
第11回	実習記録の実際と方法																																		
第12回	実習内容の振り返りとまとめ																																		
第13回	実習報告会の準備																																		
第14回	実習報告会																																		
第15回	実習の総括																																		
授業に対する予習・復習	予習： 実習に向けて、必要な準備を行うこと。			復習： 実習の内容を振り返り、課題を明確にすること。																															
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題・レポート（60%）、授業態度（30%）、手続き（10%）																																		
教科書	『実習の手引き』（実習委員会）、『保育所保育指針』																																		
参考文献	授業において紹介する。																																		
注意事項	指導案の作成にあたり、様々な授業を通して学んできた遊びや造形表現のアイデアが必要になる。子どもとの活動に際して、役に立ちそうなものをノートにまとめておくなど、学びに対する主体的な態度をもつよう心掛けてほしい。実習について必要な準備を進めるため、原則として欠席はしないこと。																																		

科 目 名	国 語 教 育	単位数	2	担当教員	浅木 尚実																														
授 業 の 内 容	幼児期における国語教育の基礎は、「読む・書く」よりも、「聞く・話す」にある。その延長線上には、「伝える・考える」能力が展開していく。母国語である日本語を正しく、美しく伝え、受けとる技術を学ぶ。																																		
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児にとって質の高い文学である絵本及び幼年文学とは何かを習得する。</li> <li>・児童詩や童謡を鑑賞し、子どもへの指導法を習得する。</li> <li>・伝統的言語文化である昔話の特色を学び、小学校での学びへの連携を理解する。</li> </ul>																																		
授 業 計 画	<table border="1"> <tr> <td>第 1 回</td><td>オリエンテーション</td></tr> <tr> <td>第 2 回</td><td>読む・聞く—絵本①：絵本の基本を学ぶ</td></tr> <tr> <td>第 3 回</td><td>読む・聞く—絵本②：文章の読み方・絵の読み方を知る</td></tr> <tr> <td>第 4 回</td><td>読む・聞く—絵本③：絵本のことばを鑑賞する</td></tr> <tr> <td>第 5 回</td><td>聞く・話す①—早口ことば・なぞなぞ・ことば遊び</td></tr> <tr> <td>第 6 回</td><td>聞く・話す②—紙芝居</td></tr> <tr> <td>第 7 回</td><td>読む—童謡・詩・幼年童話</td></tr> <tr> <td>第 8 回</td><td>聞く—伝統的言語文化「昔話」</td></tr> <tr> <td>第 9 回</td><td>書く①：脚本を書く</td></tr> <tr> <td>第 10 回</td><td>書く②：脚本を書く</td></tr> <tr> <td>第 11 回</td><td>伝える①：紙芝居制作</td></tr> <tr> <td>第 12 回</td><td>伝える②：紙芝居制作</td></tr> <tr> <td>第 13 回</td><td>伝える③：発表</td></tr> <tr> <td>第 14 回</td><td>伝える④：発表</td></tr> <tr> <td>第 15 回</td><td>まとめ</td></tr> </table>					第 1 回	オリエンテーション	第 2 回	読む・聞く—絵本①：絵本の基本を学ぶ	第 3 回	読む・聞く—絵本②：文章の読み方・絵の読み方を知る	第 4 回	読む・聞く—絵本③：絵本のことばを鑑賞する	第 5 回	聞く・話す①—早口ことば・なぞなぞ・ことば遊び	第 6 回	聞く・話す②—紙芝居	第 7 回	読む—童謡・詩・幼年童話	第 8 回	聞く—伝統的言語文化「昔話」	第 9 回	書く①：脚本を書く	第 10 回	書く②：脚本を書く	第 11 回	伝える①：紙芝居制作	第 12 回	伝える②：紙芝居制作	第 13 回	伝える③：発表	第 14 回	伝える④：発表	第 15 回	まとめ
第 1 回	オリエンテーション																																		
第 2 回	読む・聞く—絵本①：絵本の基本を学ぶ																																		
第 3 回	読む・聞く—絵本②：文章の読み方・絵の読み方を知る																																		
第 4 回	読む・聞く—絵本③：絵本のことばを鑑賞する																																		
第 5 回	聞く・話す①—早口ことば・なぞなぞ・ことば遊び																																		
第 6 回	聞く・話す②—紙芝居																																		
第 7 回	読む—童謡・詩・幼年童話																																		
第 8 回	聞く—伝統的言語文化「昔話」																																		
第 9 回	書く①：脚本を書く																																		
第 10 回	書く②：脚本を書く																																		
第 11 回	伝える①：紙芝居制作																																		
第 12 回	伝える②：紙芝居制作																																		
第 13 回	伝える③：発表																																		
第 14 回	伝える④：発表																																		
第 15 回	まとめ																																		
授 業 に 対 す る 予習・復習	予習： 前の授業の課題について準備を行なう		復習： 教科書をまとめる																																
成 績 評 価 の 方 法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（40%）、課題（20%）、作品（10%）、発表（20%）、授業態度（10%）																																		
教 科 書	『絵本から学ぶ子どもの文化』（浅木尚実編著、同文書院）																																		
参 考 文 献	その都度紹介する。																																		
注 意 事 項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループによる学習に積極的に参加する</li> <li>・紹介された児童文化財に実際に触れ、知識、技術を深める。</li> </ul>																																		

科目名	数　量　教　育	単位数	2	担当教員	星野　治
授業の内容	この授業では、身の回りのあらゆる事象を「数」・「量」・「形」の観点から見つめ直すことを通して、「数」・「量」・「形」の意味するものや、「数」・「量」・「形」の取り扱わしかたを考察する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>私たちの社会が「数」・「量」・「形」を抜きにしては、成り立たないことを確認できる。</li> <li>幼少時から慣れ親しんできた「数」・「量」・「形」が、私たち自身の社会感覚の形成過程に際して重要な鍵の一つであることを、各人なりに理解できる。</li> <li>幼児の将来の学校活動（例：算数授業への参加など）や社会活動（例：買い物など）に無理なく結び付けられるような、数量教育指導のありかたを考えることができる。</li> </ul>				
授業計画	第1回	数の面白さ・不思議さ “数”のもつ魅力を概観する。			
	第2回	言葉としての数 “数”が言葉の一種であることを確認する。			
	第3回	数の種類 実際に使われている、いろいろな“数”を概観する。			
	第4回	数量と图形との関係 “かず”と“かたち”との対応を概観する。			
	第5回	生活の中の数・量・形 日常の諸活動の中に登場する“数”を概観する。			
	第6回	遊びの中の数・量・形① いろいろな遊びの中に垣間見られる“数”を概観する。			
	第7回	数・量に関する先人の知恵① 実用されている様々な“単位”的意味を概観する。			
	第8回	数・量に関する先人の知恵② これまでに考案してきた、実用的な数値処理手法について概観する。			
	第9回	文芸作品の中の数・量・形① “数”的観点から、往年の名作（主に文章作品）を鑑賞し直す。			
	第10回	文芸作品の中の数・量・形② “数”的観点から、往年の名作（主に映画作品）を鑑賞し直す。			
	第11回	小・中学校の算数・数学① 文部科学省の学習指導要領のうち、小学校の算数に関する内容を概観する。			
	第12回	小・中学校の算数・数学② 文部科学省の学習指導要領のうち、中学校の数学に関する内容を概観する。			
	第13回	遊びの中の数・量・形② 数遊びそのものを通して、“数”的面白さを概観する。			
	第14回	幼児教育における数・量・形 未就学児にとって必要な“数”とは何かを見直す。			
	第15回	全体のまとめ 「数」・「量」・「形」に対する教育のありかたを、各自なりに整理する。			
授業に対する予習・復習	予習： 予習が必要とされる事項については、担当教員が指示する。			復習： 復習が必要とされる事項については、担当教員が指示する。	
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（70%）、授業態度（30%）				
教科書	必要に応じて隨時指定する。				
参考文献	『幼保連携認定こども園教育・保育要領』（内閣府・文部科学省・厚生労働省）、『幼稚園教育要領』（文部科学省）、『小学校学習指導要領』（文部科学省）、『中学校学習指導要領』（文部科学省）、その他必要に応じて隨時紹介する。				
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業は講義形式であるが、解題一辺倒だけではなく、算数（・数学）に関する話題や文芸作品についても取り扱う。</li> <li>小学校レベルの算数問題は、一見単純そうであるが、いざ解こうとすると案外手こずることが多い。決して油断しないこと。</li> <li>他の授業で使用する教科書や参考文献を、この授業でも使用する場合がある。</li> <li>この授業で取り扱う話題（問題）は、いわゆる算数・数学の問題とは異なり、解答が一つだけであるとは限らない。また、個々の話題の内容を理解するには、幅広い背景知識が求められる。“自分自身ならばこう考える”という能動的な態度で、授業に参加してほしい。</li> </ul>				

科目名	保育者論	単位数	2	担当教員	石河 信雅
授業内容	少子化、高齢化、情報化社会、知識基盤社会などと現代は表現されている。この様な、社会の変化に伴い保育や保育者の役割が変化しつつある。しかし、保育者はいつも子どもと共に「過去」「現在」「未来」を生きていかなければならない。子どもと共に、保護者と共に、同僚や地域社会と共に生きることが重要である。そのためにも専門家としての職務、資質、専門性、現代社会における保育者の在り方等について、理解を深める。				
到達目標	1 保育の「質」について自分自身の考えが持てる。 2 保育者を目指す身として「今」自分は何をしなければならないかをしっかりと見据え、分析し、学びに取り組む姿勢をつくる。 3 保育者とは常に学び続けなければならない存在である、そのためにも学びの手法を身に付ける。				
授業計画	第1回 オリエンテーション 本講義の到達目標をしっかりと確認し、これから学びについての心構えを持つようする。また、講義についての受講態度や講義内容について理解し各自の意欲化を図る。 第2回 保育の質について。保育の質について、各種の「論」を考察し、これから目指すべき幼稚園や保育園等での保育の質について様々な考えがあることを理解する。 第3回 保育者の質について。保育の質について理解し、その保育を実践する保育者とはどの様であるべきか、その質とはどのようなものかを理解し、これからの学びを自分自身の成長に資するよう意欲化を図る。 第4回 先人の教えに学ぶ。先人の教えなどにより保育のあるべき姿について考察し、保育者としてあるべき姿を描き、実践者としての質を高めるための方法を理解する。 第5回 保育の基礎。「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型 認定こども園教育・保育要領」を参考に、保育の実際や保育の基本について理解する。 第6回 保育者として行うべき仕事について。保育者として、実際に行うべき仕事について実践事例から学ぶ。特に、幼稚園前期実習前でもあるので実習において何を学ぶべきかを理解する。 第7回 保育者として身に付けておきたい資質について。保育者として身に付けておきたい資質の一つとして、コミュニケーション能力がある。コミュニケーション能力とは何かを実践をとおして学び理解する。 第8回 保育者として、育てたい幼児像を描く。「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型 認定こども園教育・保育要領」を参考にしながら、育てたい幼児像に迫り考察する。 第9回 保育実践の実際。子どもたちの実態さらに保護者の願い、社会の様々な要求に応える保育とはどの様であるべきかを分析し、考察する。理想とすべき保育実践を各自のなかで明らかにする。 第10回 保育者として「理想」の保育を行うために「今」何を学び、何を身に付ければよいか。理想とする保育実践を行うために「今」何を学び、どのような資質を身に付けておくべきかを理解する。 第11回 子どもの発達と保育内容。子どもの発達について専門領域で学んだ内容を保育の実践に活かす方法について、事例をもとに学び理解する。 第12回 子育て支援、地域との連携について。子育て支援の実際や地域との連携の実際にについて事例を通して学び理解する。特に、子育て支援は核家族化における現代社会において重要な事柄であることを理解する。 第13回 保幼小連携について。保育園、幼稚園、認定こども園と小学校との連携は「今」非常に重要な課題である。特に、小学校での小1プロブレムなどの課題解決のためにもその重要性を理解しておかなければならない。 第14回 現代社会の情勢について。保育は、社会情勢の在り方に大きく左右される側面を持つ。社会情勢を様々な視点から観られる様になることは保育者として身に付けておきたい資質である。中庸な目での情報収集の在り方について理解する。 第15回 保育者の成長と同僚性、そしてまとめ。保育者は常に学び続けなければならない。そのためにも、学び方を身に付け同僚との学びの重要性について実践事例から学び理解する。いつまでも自分を磨き成長させる保育者となることの重要性を理解する。				
授業に対する予習・復習	予習 :	復習 :	講義内容について自分自身で見直し、身に付けるようにする。また、関連事項を自分なりに掘り起こし、学びを広げるようする。		
成績評価の方 法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（50%）、レポート（30%）、授業態度（20%）				
教科書	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』<原本>（内閣府・文部科学省・厚生労働省、チャイルド本社）				
参考文献	講義の中で随時提示する。				
注意事項	教科書については、教育・保育要領や教育要領、保育指針の原本を所持していれば、それを使用する。特にチャイルド本社の物である必要はない。				

科 目 名	教 育 社 会 学		单 位 数	2	担 当 教 員	越 川 葉 子																														
授 業 の 内 容	本講義では、教育という身近な営みを、社会学という学問的立場からアプローチすることで、受講生がこれまで自明視してきた教育観や子ども観を捉えなおし、保育実践に応用可能なものの見方や考え方の獲得を目指す。																																			
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己と社会との関わりを日常生活の身近な現象からつかみとることができる。</li> <li>子どもの社会化過程を具体的な事例に即して理解することができる。</li> <li>保育者として実践場面に応用可能な社会学的なものの見方を身に付けることができる。</li> </ul>																																			
授 業 計 画	<table border="1"> <tr> <td>第 1 回</td><td>オリエンテーション—教育社会学とは何か—</td></tr> <tr> <td>第 2 回</td><td>「私」のなかの「社会」を見る①—学校教育を問い合わせる—</td></tr> <tr> <td>第 3 回</td><td>「私」のなかの「社会」を見る②—選抜・配分装置としての学校—</td></tr> <tr> <td>第 4 回</td><td>「私」のなかの「社会」を見る③—働くことの意味—</td></tr> <tr> <td>第 5 回</td><td>「私」のなかの「社会」を見る④—アイデンティティ形成—</td></tr> <tr> <td>第 6 回</td><td>「社会」を観察する①—「生きづらさ」を「ジェンダー」の視点から捉える—</td></tr> <tr> <td>第 7 回</td><td>「社会」を観察する②—日常に潜む「権力」関係をつかむ—</td></tr> <tr> <td>第 8 回</td><td>「社会」を観察する③—「子ども」はどこにいるのか—</td></tr> <tr> <td>第 9 回</td><td>子どもの問題行動とどう向き合うか①—個人の問題としての問題行動—</td></tr> <tr> <td>第 10 回</td><td>子どもの問題行動とどう向き合うか②—社会の問題としての問題行動—</td></tr> <tr> <td>第 11 回</td><td>子どもの問題行動とどう向き合うか③—人びとの活動が問題をつくるという視点—</td></tr> <tr> <td>第 12 回</td><td>現代の子ども問題について考える①—いじめ問題の成立過程—</td></tr> <tr> <td>第 13 回</td><td>現代の子ども問題について考える②—いじめ問題とどう向き合うか—</td></tr> <tr> <td>第 14 回</td><td>子どもの「社会化」を考える①—家族の中の「子ども」について—</td></tr> <tr> <td>第 15 回</td><td>子どもの「社会化」を考える②—就学前教育から学校生活への移行について—</td></tr> </table>						第 1 回	オリエンテーション—教育社会学とは何か—	第 2 回	「私」のなかの「社会」を見る①—学校教育を問い合わせる—	第 3 回	「私」のなかの「社会」を見る②—選抜・配分装置としての学校—	第 4 回	「私」のなかの「社会」を見る③—働くことの意味—	第 5 回	「私」のなかの「社会」を見る④—アイデンティティ形成—	第 6 回	「社会」を観察する①—「生きづらさ」を「ジェンダー」の視点から捉える—	第 7 回	「社会」を観察する②—日常に潜む「権力」関係をつかむ—	第 8 回	「社会」を観察する③—「子ども」はどこにいるのか—	第 9 回	子どもの問題行動とどう向き合うか①—個人の問題としての問題行動—	第 10 回	子どもの問題行動とどう向き合うか②—社会の問題としての問題行動—	第 11 回	子どもの問題行動とどう向き合うか③—人びとの活動が問題をつくるという視点—	第 12 回	現代の子ども問題について考える①—いじめ問題の成立過程—	第 13 回	現代の子ども問題について考える②—いじめ問題とどう向き合うか—	第 14 回	子どもの「社会化」を考える①—家族の中の「子ども」について—	第 15 回	子どもの「社会化」を考える②—就学前教育から学校生活への移行について—
第 1 回	オリエンテーション—教育社会学とは何か—																																			
第 2 回	「私」のなかの「社会」を見る①—学校教育を問い合わせる—																																			
第 3 回	「私」のなかの「社会」を見る②—選抜・配分装置としての学校—																																			
第 4 回	「私」のなかの「社会」を見る③—働くことの意味—																																			
第 5 回	「私」のなかの「社会」を見る④—アイデンティティ形成—																																			
第 6 回	「社会」を観察する①—「生きづらさ」を「ジェンダー」の視点から捉える—																																			
第 7 回	「社会」を観察する②—日常に潜む「権力」関係をつかむ—																																			
第 8 回	「社会」を観察する③—「子ども」はどこにいるのか—																																			
第 9 回	子どもの問題行動とどう向き合うか①—個人の問題としての問題行動—																																			
第 10 回	子どもの問題行動とどう向き合うか②—社会の問題としての問題行動—																																			
第 11 回	子どもの問題行動とどう向き合うか③—人びとの活動が問題をつくるという視点—																																			
第 12 回	現代の子ども問題について考える①—いじめ問題の成立過程—																																			
第 13 回	現代の子ども問題について考える②—いじめ問題とどう向き合うか—																																			
第 14 回	子どもの「社会化」を考える①—家族の中の「子ども」について—																																			
第 15 回	子どもの「社会化」を考える②—就学前教育から学校生活への移行について—																																			
授 業 に 対 す る 予習・復習	予習： 特になし。	復習：	講義で配布したプリントを再読し、疑問点をまとめておくこと。 講義で紹介した資料や参考文献を手にとり、自分の目で再読すること。																																	
成 績 評 価 の 方 法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（50%）、課題（30%）、授業態度（20%）																																			
教 科 書	特になし。																																			
参 考 文 献	必要に応じて適宜、紹介する。																																			
注 意 事 項	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中の私語や不要物の持込は認めない。</li> <li>授業毎にプリントを配布する。配布プリントはファイルにまとめて保管しておくこと。</li> <li>授業毎に課題を出す。課題は授業時間内に作成・提出すること。</li> <li>授業内に受講生に意見を求める予定である。受講生が積極的に質問・意見を表明することを期待する。</li> </ul>																																			

科目名	保育課程論	単位数	2	担当教員	鯛谷 和代																														
授業内容	関係法令、保育所保育指針、認定こども園、幼稚園教育要領の趣旨を理解し、全在所、在園期間を見通した、保育課程・長期（年間・期間・月）短期（週・日・特定の活動など）の指導計画。その資料による保育構想から、全体像を学び取り指導計画をたてながら、学んでいく。																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育者は何を基準に保育を行うのか説明できるようになる。</li> <li>ねらいや子どもの姿から経験させたい、具体的な活動がすぐに思い浮かぶようになる。</li> <li>自分の園を作るならどのような方針目標をかかげるかを考え、それを実現するための保育室・園庭の設計図を作成する。</li> </ul>																																		
授業計画	<table border="1"> <tr><td>第1回</td><td>子どもの生活の連続性、および発達や学びの連続性の関係性について</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領について</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>関係法令（教育基本法・学校教育法・児童福祉法・児童福祉施設の基準など）について</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>保育は何を基準に行うのか、保育課程の独自性について</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>保育の全体計画と保育計画の必要性について</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>保育課程編成の基本的な考え方について</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>保育課程編成に必要な基本的事項について</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>園の概要（方針・目標など）を作成する（グループワーク）</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>保育室・園庭を設計図作成する（グループワーク）</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>保育課程と指導計画の関係について</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>保育課程がどのように計画として具現化されていくのかについて</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>指導計画の作成① 保育課程から長期指導計画（第1・2期）を作成（グループワーク）</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>指導計画の作成② 保育課程から長期指導計画（第3・4期）を作成（グループワーク）</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>指導計画の作成③ 長期指導計画（月案）から短期指導計画（週案）を作成（グループワーク）</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>保育の評価と保育要領の書き方について</td></tr> </table>					第1回	子どもの生活の連続性、および発達や学びの連続性の関係性について	第2回	保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領について	第3回	関係法令（教育基本法・学校教育法・児童福祉法・児童福祉施設の基準など）について	第4回	保育は何を基準に行うのか、保育課程の独自性について	第5回	保育の全体計画と保育計画の必要性について	第6回	保育課程編成の基本的な考え方について	第7回	保育課程編成に必要な基本的事項について	第8回	園の概要（方針・目標など）を作成する（グループワーク）	第9回	保育室・園庭を設計図作成する（グループワーク）	第10回	保育課程と指導計画の関係について	第11回	保育課程がどのように計画として具現化されていくのかについて	第12回	指導計画の作成① 保育課程から長期指導計画（第1・2期）を作成（グループワーク）	第13回	指導計画の作成② 保育課程から長期指導計画（第3・4期）を作成（グループワーク）	第14回	指導計画の作成③ 長期指導計画（月案）から短期指導計画（週案）を作成（グループワーク）	第15回	保育の評価と保育要領の書き方について
第1回	子どもの生活の連続性、および発達や学びの連続性の関係性について																																		
第2回	保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領について																																		
第3回	関係法令（教育基本法・学校教育法・児童福祉法・児童福祉施設の基準など）について																																		
第4回	保育は何を基準に行うのか、保育課程の独自性について																																		
第5回	保育の全体計画と保育計画の必要性について																																		
第6回	保育課程編成の基本的な考え方について																																		
第7回	保育課程編成に必要な基本的事項について																																		
第8回	園の概要（方針・目標など）を作成する（グループワーク）																																		
第9回	保育室・園庭を設計図作成する（グループワーク）																																		
第10回	保育課程と指導計画の関係について																																		
第11回	保育課程がどのように計画として具現化されていくのかについて																																		
第12回	指導計画の作成① 保育課程から長期指導計画（第1・2期）を作成（グループワーク）																																		
第13回	指導計画の作成② 保育課程から長期指導計画（第3・4期）を作成（グループワーク）																																		
第14回	指導計画の作成③ 長期指導計画（月案）から短期指導計画（週案）を作成（グループワーク）																																		
第15回	保育の評価と保育要領の書き方について																																		
授業に対する予習・復習	予習：	復習： 毎回の資料整理 (14回目にまとめて資料提出)																																	
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない</p> <p>筆記試験（50%）、課題（30%）、発表（20%）</p> <p>※単元ごとに小テストをおこないます</p>																																		
教科書	『保育所保育指針解説書』、『幼稚園教育要領解説』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』																																		
参考文献	幼稚園教育指導資料第1集『指導計画の作成と保育の展開』(文部科学省) 幼稚園教育指導資料第2集『幼児理解と評価』(文部科学省)																																		
注意事項	分からないこと、疑問点がある場合には、その場で質問をするようにしましょう。																																		

科 目 名	保育内容（音楽表現Ⅱ）	単位数	1	担当教員	二藤 宏美																														
授 業 の 内 容	身体を使った音楽表現ゲームを学習します。授業では、実際にリーダー役となってクラスのメンバーにゲームを伝える実践を通して、展開手法を学びます。遊びに関連した簡単な歌やピアノの即興演奏を体験します。適宜サウンドスケープの理念に基づく身近な音探索課題も紹介します。																																		
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業で扱った音楽ゲームの内容と意図を理解する。</li> <li>指導者として状況に応じて柔軟にプログラム展開ができる。</li> <li>身近な音環境について深く考察できる。</li> <li>聴覚的な想像や音づくり活動の重要性を実感する。</li> </ul>																																		
授 業 計 画	<table border="1"> <tr><td>第1回</td><td>身近な環境にある音を聞く 静止した音、動く音</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>からだの中の音楽をみつける</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>ビートにのろう リズムのオステイナート</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>ビートにのろう 変化するリズムパターン</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>拍子を感じよう 2拍子、3拍子、4拍子</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>拍子を感じよう 8分の6拍子</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>静寂と音作り 紙を使って</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>フレーズ・呼吸・空間 ともだちとかかわる</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>フレーズ・呼吸・空間 アクセントを予感して</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>イメージ遊び ジャングルの音</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>イメージ遊び パン屋さんごっこ</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>即興演奏 高い音 低い音 ドの即興</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>即興演奏 ソファミ 音の階段</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>歌と楽器でゲーム おきなわのうみ</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>声だけを使った表現（水、街、童話）</td></tr> </table>					第1回	身近な環境にある音を聞く 静止した音、動く音	第2回	からだの中の音楽をみつける	第3回	ビートにのろう リズムのオステイナート	第4回	ビートにのろう 変化するリズムパターン	第5回	拍子を感じよう 2拍子、3拍子、4拍子	第6回	拍子を感じよう 8分の6拍子	第7回	静寂と音作り 紙を使って	第8回	フレーズ・呼吸・空間 ともだちとかかわる	第9回	フレーズ・呼吸・空間 アクセントを予感して	第10回	イメージ遊び ジャングルの音	第11回	イメージ遊び パン屋さんごっこ	第12回	即興演奏 高い音 低い音 ドの即興	第13回	即興演奏 ソファミ 音の階段	第14回	歌と楽器でゲーム おきなわのうみ	第15回	声だけを使った表現（水、街、童話）
第1回	身近な環境にある音を聞く 静止した音、動く音																																		
第2回	からだの中の音楽をみつける																																		
第3回	ビートにのろう リズムのオステイナート																																		
第4回	ビートにのろう 変化するリズムパターン																																		
第5回	拍子を感じよう 2拍子、3拍子、4拍子																																		
第6回	拍子を感じよう 8分の6拍子																																		
第7回	静寂と音作り 紙を使って																																		
第8回	フレーズ・呼吸・空間 ともだちとかかわる																																		
第9回	フレーズ・呼吸・空間 アクセントを予感して																																		
第10回	イメージ遊び ジャングルの音																																		
第11回	イメージ遊び パン屋さんごっこ																																		
第12回	即興演奏 高い音 低い音 ドの即興																																		
第13回	即興演奏 ソファミ 音の階段																																		
第14回	歌と楽器でゲーム おきなわのうみ																																		
第15回	声だけを使った表現（水、街、童話）																																		
授 業 に 対 す る 予習・復習	予習：持ち回りでリーダーになり、教科書で紹介されているゲームを伝えます。担当になったら万全に準備をしましょう。	復習：扱ったゲームの意義、プログラム展開、課題、感想をまとめておくこと。																																	
成績評価の方 法	試験期間における定期試験：実施（）する／（○）しない レポート（30%）、発表（30%）、実技（30%）、授業態度（10%）																																		
教 科 書	『リズム&ゲームにどっぷり！リトミック77選』（神原雅之、明治図書）																																		
参 考 文 献	『サウンド・エデュケーション』（R. マリー・シェーファー、春秋社）																																		
注 意 事 項	音や音楽を扱う授業です。しっかり声を出し音を奏でるべき場面もあれば、沈黙必須の場面もあります。心して臨んで下さい。																																		

科 目 名	保育内容（造形表現Ⅱ）	単位数	1	担当教員	稻葉 恭子	
授 業 の 内 容	子どもの発達段階を踏まえた造形表現について理解を深めながら、子どもの表現意欲を引き出す言葉かけや関わり方を学びます。 素材の持ち味を活かした造形表現を考え、子ども達が心を解放し活き活きと表現出来る行動計画の構成を学びます。					
到 達 目 標	1. 保育者として豊かな感性および創造性と表現力を身につけ、子どもの表現活動を多様な方面から受けとめ支援できる保育者をめざす。 2. 乳幼児期に適した非言語コミュニケーションの手段を豊富に持ち、子どもが表現したくなる手立てを状況に応じて提供できる専門性を身につける。 3. 子どもの発達に応じた造形表現の行動計画を考え、構成できる力を身につける。					
授 業 計 画	第1回 授業のねらいと進め方について・子どもの造形活動の保育環境設定について 第2回 感性・イメージを豊かにする－1 スタンピング（スタンプ制作） 第3回 感性・イメージを豊かにする－2 スタンピング（スタンピングで表現） 第4回 感性・イメージを豊かにする－3 素材を活かした楽器制作（素材選び） 第5回 感性・イメージを豊かにする－4 素材を活かした楽器制作（グループ演奏） 第6回 感性・イメージを豊かにする表現活動の指導計画 第7回 あそびを豊かにする－1 人形遊びを楽しむ（動く棒人形制作） 第8回 あそびを豊かにする－2 人形遊びを楽しむ（人形あそび発表） 第9回 あそびを豊かにする－3 紙袋であそぶ（魚の制作） 第10回 あそびを豊かにする－4 紙袋であそぶ（水族館づくり） 第11回 あそびを豊かにする造形表現活動の指導計画 第12回 環境・行事を豊かにする－1 四季を彩る壁面構成（四季の行事からテーマを決め下書き） 第13回 環境・行事を豊かにする－2 四季を彩る壁面構成（壁面装飾制作） 第14回 環境・行事を豊かにする造形表現活動の発表 第15回 造形表現活動のまとめと自己評価					
授 業 に 対 す る 予習・復習	予習： 1. 次回授業の準備物を、制作内容を考えながら整える		復習： 1. 制作活動のふり返り 2. ミニ壁面制作			
成績評価の 方 法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（20%）、課題（20%）、作品（40%）、授業態度（20%）					
教 科 書	『楽しい造形表現』（子ども造形表現研究会、圭文社）					
参 考 文 献	『表現活動の行動計画表づくり』（芸術教育研究所監修・平井由美子編著、黎明書房） 授業中に随時紹介。					
注 意 事 項	①作品の提出期日を守ること。 ②授業に必要な道具や材料は各自責任を持って準備すること。 ③制作に要する材料費は本人負担。					

科目名	保育指導法	単位数	2	担当教員	當麻 祐子						
授業の内容	基本的な知識と保育教材研究を通して実践的に学ぶ。 様々な教育・保育場面を想定し、ビデオやグループ討議など交えながら学んでいく。										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの姿を映したビデオを見て、子ども理解の課題に答えることが出来る</li> <li>提示されたエピソードに対し、学生同士で話し合い、色々な視点があることに気付くことが出来る</li> <li>指導要領と実際の保育教育をつなげて理解することができる</li> <li>幼児教育に携わることへの責任とやりがいを感じることが出来る</li> </ul>										
授業計画	第1回	保育指導法とは何か	第16回	基本的生活習慣の指導							
授業計画	第2回	子ども理解と保育方法	第17回	さまざまな安全指導							
	第3回	子ども理解と発達	第18回	園外の環境と保育							
	第4回	発達の特徴と保育（2歳まで）	第19回	教育課程と指導計画							
	第5回	発達の特徴と保育（3～5歳）	第20回	保育研究～運動							
	第6回	環境を通しての保育	第21回	保育研究～言葉							
	第7回	保育における遊び	第22回	絵本と月刊誌							
	第8回	遊びを通しての指導	第23回	指導案と実践							
	第9回	個と集団の育ち	第24回	実習エピソードから学ぶ							
	第10回	様々な保育形態	第25回	園行事について							
	第11回	保育研究～自然	第26回	特別支援教育について							
	第12回	保育研究～造形	第27回	地域との連携・保護者とのかかわり							
	第13回	保育研究～音楽	第28回	保幼小連携と小学校への接続							
	第14回	保育研究～動物	第29回	保育者の専門性							
	第15回	まとめ	第30回	まとめ							
授業に対する予習・復習	予習：	復習： 授業で使用したプリント等で各自復習する									
成績評価の方 法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（○）しない 筆記試験（60%）、課題（10%）、授業態度（30%）										
教科書	オリジナルのパワポスライドを使用（適宜配布）										
参考文献	『ここが変わった！新幼稚園教育要領 改訂のポイントと解説』（無藤 隆 監修、チャイルド本社）										
注意事項	人格の基礎を培う幼児期の保育教育に携わるための勉強であることを自覚して臨むこと。 授業へ取り組む姿勢を重視していく。										

科 目 名	教 育 相 談	単位数	2	担当教員	伊藤 明芳																														
授 業 の 内 容	<p>教育相談は、保育者が相談者（主に保護者）に対して、家庭や幼稚園における子どもの教育上の問題について、その望ましい解決に向けて助言や援助指導をおこなう実践活動である。背景に発達や環境の要因があると推測される子どもの問題行動から保護者の養育不安まで、相談内容は多岐にわたる。これからの保育者には保護者へのサポートよりも意識的に求められるようになると考えられる。</p> <p>本講義では、教育相談の基礎的知識の習得と現場で活きる教育相談の実践的能力の育成を図る。さらに、保育者自身の心の安定と成長にもアプローチしたいと考えている。</p>																																		
到 達 目 標	<p>①カウンセリング等相談の基本を学び、それを保育現場での教育相談の実践に活かすことを考えられる。</p> <p>②保育者として多様な子どもや保護者の問題を理解し、相談者的心に寄り添う相談実践を勇気を持っておこなえるようになる。</p>																																		
授 業 計 画	<table border="1"> <tr> <td>第 1 回</td><td>1. イントロダクション 教育相談とは何か</td></tr> <tr> <td>第 2 回</td><td>2. 体験から学ぶ相談に必要なこと ロールプレイ(1) [相談を受ける時の基本姿勢]</td></tr> <tr> <td>第 3 回</td><td>ロールプレイ(2) [意思を通じあうこと]</td></tr> <tr> <td>第 4 回</td><td>3. 相談実践の基本と応用 教育相談の基礎(1) [概要]</td></tr> <tr> <td>第 5 回</td><td>教育相談の基礎(2) [実践へのヒント]</td></tr> <tr> <td>第 6 回</td><td>教育相談のためのカウンセリング活用</td></tr> <tr> <td>第 7 回</td><td>教育相談のための心理アセスメント</td></tr> <tr> <td>第 8 回</td><td>教育相談のプロセス</td></tr> <tr> <td>第 9 回</td><td>教育相談の技法</td></tr> <tr> <td>第 10 回</td><td>4. 事例から学ぶ教育相談 子どもの心の発達・心の問題(1) [登園渋り]</td></tr> <tr> <td>第 11 回</td><td>子どもの心の発達・心の問題(2) [逸脱行動]</td></tr> <tr> <td>第 12 回</td><td>子どもの心の発達・心の問題(3) [保護者的心]</td></tr> <tr> <td>第 13 回</td><td>5. 保育者の心の健康を育む カウンセリングの理論</td></tr> <tr> <td>第 14 回</td><td>エンカウンター実習</td></tr> <tr> <td>第 15 回</td><td>まとめと今後へのアドバイス</td></tr> </table>					第 1 回	1. イントロダクション 教育相談とは何か	第 2 回	2. 体験から学ぶ相談に必要なこと ロールプレイ(1) [相談を受ける時の基本姿勢]	第 3 回	ロールプレイ(2) [意思を通じあうこと]	第 4 回	3. 相談実践の基本と応用 教育相談の基礎(1) [概要]	第 5 回	教育相談の基礎(2) [実践へのヒント]	第 6 回	教育相談のためのカウンセリング活用	第 7 回	教育相談のための心理アセスメント	第 8 回	教育相談のプロセス	第 9 回	教育相談の技法	第 10 回	4. 事例から学ぶ教育相談 子どもの心の発達・心の問題(1) [登園渋り]	第 11 回	子どもの心の発達・心の問題(2) [逸脱行動]	第 12 回	子どもの心の発達・心の問題(3) [保護者的心]	第 13 回	5. 保育者の心の健康を育む カウンセリングの理論	第 14 回	エンカウンター実習	第 15 回	まとめと今後へのアドバイス
第 1 回	1. イントロダクション 教育相談とは何か																																		
第 2 回	2. 体験から学ぶ相談に必要なこと ロールプレイ(1) [相談を受ける時の基本姿勢]																																		
第 3 回	ロールプレイ(2) [意思を通じあうこと]																																		
第 4 回	3. 相談実践の基本と応用 教育相談の基礎(1) [概要]																																		
第 5 回	教育相談の基礎(2) [実践へのヒント]																																		
第 6 回	教育相談のためのカウンセリング活用																																		
第 7 回	教育相談のための心理アセスメント																																		
第 8 回	教育相談のプロセス																																		
第 9 回	教育相談の技法																																		
第 10 回	4. 事例から学ぶ教育相談 子どもの心の発達・心の問題(1) [登園渋り]																																		
第 11 回	子どもの心の発達・心の問題(2) [逸脱行動]																																		
第 12 回	子どもの心の発達・心の問題(3) [保護者的心]																																		
第 13 回	5. 保育者の心の健康を育む カウンセリングの理論																																		
第 14 回	エンカウンター実習																																		
第 15 回	まとめと今後へのアドバイス																																		
授 業 に 対 す る 予習・復習	予習 :	復習 : 知識の定着をおこない、学んだことを実際の場面でどう活かすか考えること。																																	
成 績 評 価 の 方 法	<p>試験期間における定期試験： 実施 (○) する / ( ) しない</p> <p>筆記試験 (80%)、課題 (20%)</p>																																		
教 科 書	特に指定しない																																		
参 考 文 献	講義の中で必要に応じて適宜紹介する																																		
注 意 事 項	<p>講義を中心におこなう。実際の事例などをあげ、受講生にわかりやすい内容を心がけたい。その他、ロールプレイ、エンカウンター等も取り入れ、相談やカウンセリング等の体験的な学習もおこないたい。</p> <p>相談を受けて人に関わるとき、保育者には人間的かつ専門的な総合力が必要になる。そこで、受講者には積極的に授業に参加し、自ら学び考える意欲を持つことが求められる。</p>																																		

科 目 名	幼 児 教 育 実 習	単位数	4	担当教員	近喰 晴子
授 業 の 内 容	授業を通して学んだ知識や技能が、幼児教育の場でいかに活かされ応用することができるかということを実践を通して学び、保育の営みを総合的に理解する。また、保育の様子を観察する、子どもの活動に参加する、保育者の助手的立場をとるなどの経験を通し保育者の職務理解に勤める。観察・参加実習を中心とした前期実習を2年次11月に、参加・責任実習を3年次6月に実施する。				
到 達 目 標	子どもの発達を体験的に学び、子どもの実態に合った保育の営みについて学ぶ。 保育者の職務理解に努め、責任実習を通し指導方法、指導技術などを体得する。 幼稚園の役割や機能について理解する。				
授 業 計 画	前期実習	後期実習			
授 業 計 画	実習園の概要を知る	幼稚園の特徴、機能や役割を学ぶ			
	実習園の日課を理解する	配属クラスの特徴をつかみ子どももとかかわる			
	配属クラスの子どもの名前を覚える	個々の子どもの特性を把握し、一人ひとりに合ったかかわりをする			
	子どもの遊びに参加する	保育者の保育の進め方や指導方法を学ぶ			
	保育の進め方を観察する	保育の多様な活動の部分を担当する			
	環境構成のあり方を学ぶ	教材研究をする			
	絵本の読み聞かせ、紙芝居、手遊び等保育の営みの一部分を担当する	部分実習、責任実習などの指導案を作成し実践する			
	子どもの興味・関心、思考傾向など子どもの実態を知る	登園時、降園時の保育者と保護者のかかわり方を観察する			
	保育者の職務について学ぶ	幼稚園と多機関との連携、子育て支援などについて学ぶ			
	前期実習を振り返り自己評価をする	実習全般の振り返りを行う			
	自己課題を明確にし後期実習にむけた準備をする	保育者としての自己課題を明確にする			
授 業 に 対 す る 予習・復習	予習： 絵本や紙芝居等の教材研究をする 指導案を作成する 子どもに提供できる遊びを身に付ける ピアノの練習をする	復習： 実習概要報告書をまとめる 実習を振り返り自己課題を明確にする 学んだ保育技術を明確にする ピアノの練習をする			
成 績 評 価 の 方 法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 実習園の評価（50%） 実習日誌評価（50%）				
教 科 書	『幼稚園教育実習』（浅見均・田中正浩、大学図書出版）				
参 考 文 献	『幼稚園教育要領』（文部科学省）				
注 意 事 項					

科 目 名	幼児教育実習研究	単位数	1	担当教員	近喰晴子・永井めぐみ		
授 業 の 内 容	この授業は、教育実習が不安なく効果的に行われるよう、実習に向けて事前に準備をするための教科である。実習に必要な書類を整えることから指導案の作成、自己課題の発見と学ぶ範囲も非常に広い。また、実習園からの情報も、基本的には授業内で伝える。映像教材を使用し、幼稚園や保育者、子どもの実態を具体的に理解する。						
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼稚園に関する基本的な事を理解する。</li> <li>子どもの発達の様子や遊びの実態を理解する。</li> <li>保育活動、保育内容を理解する。</li> <li>教材研究、指導案を作成する。</li> </ul>						
授 業 計 画	第1回	実習申し込み書、実習配当表を記入する。	第16回	実習報告（グループ、全体）			
	第2回	幼稚園の一日の様子を映像から通し学ぶ。	第17回	実習自己評価と自己課題			
	第3回	幼稚園教育要領解説	第18回	自己課題の取り組み方法			
	第4回	提出書類の作成…学生調査書下書き	第19回	園評価と個別面談			
	第5回	提出書類の作成…学生調査書清書	第20回	後期実習に向けて			
	第6回	実習内容（換気用整備、子どもの遊びなど）	第21回	実習時期と教材研究			
	第7回	自己紹介の方法と商会グッズの作成	第22回	部分実習指導案の作成			
	第8回	実習時期の保育や子どもの様子	第23回	主活動の指導案作成			
	第9回	実習課題を考える	第24回	一日保育実習指導案の作成			
	第10回	オリエンテーションの受け方	第25回	オリエンテーション報告書と実習巡回教員への挨拶			
	第11回	実習日誌の書き方 保育の記録	第26回	後期実習の心得			
	第12回	実習日誌の書き方 一日の振り返りと自己評価	第27回	実習反省会			
	第13回	記録文としての表現方法	第28回	実習報告会準備			
	第14回	実習中の諸注意	第29回	実習報告会資料作成			
	第15回	オリエンテーション報告、実習報告書	第30回	実習報告会			
授 業 に 対 す る 予習・復習	予習 :	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵本や手遊びなどを準備する。</li> <li>実習資料を収集する。</li> </ul>		復習 :	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業時に出したレポートをまとめる。</li> <li>授業中に完成できなかった課題のまとめ</li> </ul>		
成 績 評 価 の 方 法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない</p> <p>レポート（20%）、課題（40%）、発表（20%）、実技（20%）</p>						
教 科 書	『幼稚園教育実習』（浅見均・田中正浩、大学図書出版）						
参 考 文 献	幼稚園教育要領、保育雑誌など						
注 意 事 項							

科 目 名	保育・教職実践演習（幼稚園）	単位数	2	担当教員	土屋・伊藤・越川・高原
授 業 の 内 容	将来の教員像を描けるように、教職の意義を実践的な演習体験を通して学び直し、自己の課題を自覚し、教職生活が円滑にスタートできるようとする。以下の4つの具体的なテーマを中心に履修する。 ① 使命感や責任感、教育的愛情に関する事項 ② 社会性や対人関係能力に関する事項 ③ 幼児理解や学級経営に関する事項 ④ 教科・保育内容に関する事項				
到 達 目 標	・教職生活についての具体的なイメージを持つ。 ・他の学生とのディスカッションを通して、視野を広げて子どもとのかかわりを捉えられるようになる。 ・教職の意義を理解するとともに、自己の課題を自覚する。				
授 業 計 画	第1回 オリエンテーション 第2回 子ども一人ひとりに応じる保育とは① ～ビデオによる保育場面を記録し、子ども一人一人の思いを考える。 第3回 子ども一人ひとりに応じる保育とは② ～園での子どもの姿を保育者にどう伝えるか・連絡帳での記録 第4回 保育者の視点で考える① ～子どものトラブル対処法を保育者の視点で考える 第5回 保育者の視点で考える② ～子ども世界の多元性 第6回 今日的教育課題への理解を深める①子どもの権利に関する条約 第7回 今日的教育課題への理解を深める②事例作成 第8回 今日的教育課題への理解を深める③ポスター発表に向けて製作 第9回 今日的教育課題への理解を深める④（ポスター発表） 第10回 保護者同士の人間関係にアプローチする 第11回 保育者の悩みと対応について考える 第12回 現職幼稚園教諭による講話（クラス運営や職業生活の実際） 第13回 保育実践に向けて①児童文化、素話とは 第14回 保育実践に向けて②児童文化、素話に取り組む 第15回 授業全体のまとめと振り返り				
授 業 に 対 す る 予習・復習	予習： 次回の授業に関して、課題が示された場合に しっかりと取り組むこと。	復習：	配布資料を読み直し、ディスカッション等で話し合った内容をノートに整理する。		
成績評価の方 法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（40%）、発表（60%）				
教 科 書	特になし				
参 考 文 献	授業において紹介する。				
注 意 事 項	他の受講生の意見や考えを聞き、自分の考えと相対化することで、学びを深めてほしい。				

科目名	保育相談支援	単位数	1	担当教員	加賀谷 崇文																														
授業内容	保育現場において、保護者や子ども達の相談を受けることは現代の保育者にとって必須となる。従って、保育者を志す者は相談をどのように受けければよいのかを知っておく必要がある。 この授業では、これまで学んできた心理カウンセリングの知識などを確認するとともに、実際の保育相談支援の現場を知ることで、実践的な保育相談を学んでいく。																																		
到達目標	保護者対応について学ぶ。 保護者の悩みについて理解する。 就職してすぐに行う保護者支援についての具体的イメージを作ることができる。																																		
授業計画	<table border="1"> <tr><td>第1回</td><td>保育相談支援の意義</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>保育相談支援の原則</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>ケースワークの原則とカウンセリング</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>保護者の支援</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>保育相談の基本的方法</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>保育相談で扱われる事例（教科書の事例を学ぶ）</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>保育相談で扱われる事例（心理的問題）</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>保育相談で扱われる事例（発達の問題）</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>保育相談で扱われる事例（保護者の問題）</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>保育所以外の場所での保育相談</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>他機関との連携</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>保育者の専門性と保育所の特性を考える</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>実際の事例を検討する1（出席番号前半の学生が発表）</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>実際の事例を検討する2（出席番号後半の学生が発表）</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>まとめ</td></tr> </table>					第1回	保育相談支援の意義	第2回	保育相談支援の原則	第3回	ケースワークの原則とカウンセリング	第4回	保護者の支援	第5回	保育相談の基本的方法	第6回	保育相談で扱われる事例（教科書の事例を学ぶ）	第7回	保育相談で扱われる事例（心理的問題）	第8回	保育相談で扱われる事例（発達の問題）	第9回	保育相談で扱われる事例（保護者の問題）	第10回	保育所以外の場所での保育相談	第11回	他機関との連携	第12回	保育者の専門性と保育所の特性を考える	第13回	実際の事例を検討する1（出席番号前半の学生が発表）	第14回	実際の事例を検討する2（出席番号後半の学生が発表）	第15回	まとめ
第1回	保育相談支援の意義																																		
第2回	保育相談支援の原則																																		
第3回	ケースワークの原則とカウンセリング																																		
第4回	保護者の支援																																		
第5回	保育相談の基本的方法																																		
第6回	保育相談で扱われる事例（教科書の事例を学ぶ）																																		
第7回	保育相談で扱われる事例（心理的問題）																																		
第8回	保育相談で扱われる事例（発達の問題）																																		
第9回	保育相談で扱われる事例（保護者の問題）																																		
第10回	保育所以外の場所での保育相談																																		
第11回	他機関との連携																																		
第12回	保育者の専門性と保育所の特性を考える																																		
第13回	実際の事例を検討する1（出席番号前半の学生が発表）																																		
第14回	実際の事例を検討する2（出席番号後半の学生が発表）																																		
第15回	まとめ																																		
授業に対する 予習・復習	予習： 保育所保育指針を読んでおく。		復習： 授業内容の振り返り。																																
成績評価の方 法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（90%）、授業態度（10%）																																		
教科書	『事例で学ぶ保育のための相談援助・支援 その方法と実際』（須永進編著、同文書院）																																		
参考文献																																			
注意事項	保育相談では、悩んでいる人の発言に耳を傾けその心情を理解する謙虚な態度が不可欠である。その姿勢を身につけるためにも授業をしっかり聞き取るという構えを求める。																																		

科目名	臨床心理学	単位数	2	担当教員	加賀谷 崇文				
授業内容	現代社会では、不登校やいじめ・摂食障害など、こころの問題が原因と思われる現象が様々な場面で見られている。臨床心理学とは、このような問題を、どのように理解し、どのように援助していくかを考える学問である。このような視点を紹介した上で、我々が生活の中で、臨床心理学的な考え方をどう活かしていくか考えていきたい。また、臨床心理学では幼少時の母子関係や発達課題などが数多く論じられている。それらを紹介し、幼少時の子どもとのつき合い方を考えていきたい。								
到達目標	臨床心理学という学問分野を理解することができる。 保育と臨床心理学の接点を考えることができる。 人の心の動きを知ることで、他者と関わることができるようにになる。。								
授業計画	第1回	臨床心理学の定義	第16回	心理カウンセリングの定義					
	第2回	臨床心理学の実践	第17回	クライエント中心療法					
	第3回	臨床心理学の歴史（古代～メスマル）	第18回	クライエント中心療法の実践					
	第4回	臨床心理学の歴史（精神分析：フロイトの生涯）	第19回	心理アセスメントの定義					
	第5回	臨床心理学の歴史（精神分析：その他の研究者）	第20回	心理アセスメントの方法					
	第6回	ユングの童話分析	第21回	言語によるアセスメント					
	第7回	臨床心理学の歴史（心理学の技法）	第22回	非言語によるアセスメント					
	第8回	乳児期の母子関係（フロイト）	第23回	心理テスト					
	第9回	乳児期の母子関係（メラニー・クライン）	第24回	アセスメントと4つの水準					
	第10回	乳児期の母子関係（ウイニコット）	第25回	精神分析の技法（自由連想法・抵抗分析）					
	第11回	幼児期前半の母子関係	第26回	精神分析の技法（転移・防衛機制）					
	第12回	幼児期後半の母子関係	第27回	催眠療法					
	第13回	児童期以降の発達	第28回	認知行動療法					
	第14回	前期の復習	第29回	リラクセーションとイメージ療法					
	第15回	まとめ	第30回	まとめ					
授業に対する 予習・復習	予習： 1年次の心理学関連科目の内容を思い出 してておくこと。	復習： 授業内容を振り返ること。							
成績評価の方 法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（90%）、授業態度（10%）								
教科書									
参考文献									
注意事項	単に知識として学ぶのではなく、自分自身の心理や体験をふまえながら、臨床心理学を学べるように進めていきたい。								

科 目 名	地 域 子 育 て 支 援 論	单 位 数	2	担 当 教 員	加賀谷・土屋・越川
授 業 の 内 容	現代社会において、子育て支援は子育てをする家庭にとって非常に大きな力となっている。一方で、これらの取り組みが始まってからある程度の時間がたち、より地域に根差した新たな支援も考慮しなければならない。本講義では、地域における保育活動や子育て支援活動について諸説を学ぶとともに、実際の支援活動を行うことで「地域子育て支援」のあり方について学んでいくこととする。				
到 達 目 標	1.子育て支援の具体的方法について理解する。 2.二歳・三歳児と保護者への関わり方を学ぶ。 3.子育て支援の効果を理解する。				
授 業 計 画	第 1 回 オリエンテーション	第 16 回 親子活動準備③			
	第 2 回 支援活動内容についての説明	第 17 回 チラシの配布			
	第 3 回 親子活動内容についての検討①	第 18 回 活動役割分担			
	第 4 回 親子活動内容についての検討②	第 19 回 直前準備			
	第 5 回 親子活動内容についての検討③	第 20 回 親子活動①			
	第 6 回 親子活動内容についての検討④	第 21 回 親子活動②			
	第 7 回 親子活動内容についての検討⑤	第 22 回 親子活動③			
	第 8 回 親子活動内容についての検討⑥	第 23 回 親子活動④			
	第 9 回 親子活動内容についての検討⑦	第 24 回 親子活動⑤			
	第 10 回 親子活動の広報に関する検討	第 25 回 活動振り返り① (1回につき4・5名ずつ)			
	第 11 回 ポスターの製作	第 26 回 活動振り返り② (〃)			
	第 12 回 チラシの製作	第 27 回 活動振り返り③ (〃)			
	第 13 回 HP の製作	第 28 回 活動振り返り④ (〃)			
	第 14 回 親子活動準備①	第 29 回 次年度に向けた意見交換			
	第 15 回 親子活動準備②	第 30 回 まとめ			
授 業 に 対 す る 予習・復習	予習： 活動に関して各自で準備すること。	復習： 活動内容を振り返ること。			
成 績 評 価 の 方 法	試験期間における定期試験： 実施 ( ) する／(○) しない 授業態度 (100%)				
教 科 書					
参 考 文 献					
注 意 事 項	20名までの受講とする。 第3回～9回については、学生が主体となって活動の内容を決定する。				

科目名	カウンセリング論		単位数	2	担当教員	加賀谷 崇文						
授業の内容	心の悩みを解決する方法の一つとしてカウンセリングが挙げられる。カウンセリングの場面で重要なことは、悩んでいるクライエントの話しを如何に聴き、如何に理解するかである。そこで本授業では、精神分析やロジャーズなどのカウンセリング理論を取りあげ、実習を交えながら、クライエントの悩みの聞き方を考えていく。		<u>この授業でピアヘルパーの資格受験対策も行う。</u>									
到達目標	カウンセリングの方法を知る。 ピアヘルピングについて理解する。 カウンセリング的援助が実践できる。											
授業計画	第1回	カウンセリングの定義										
	第2回	カウンセリングの初期の流れ										
	第3回	実際のカウンセリング										
	第4回	構成的グループ・エンカウンター										
	第5回	ピアヘルピングの方法（信頼関係の構築）										
	第6回	ピアヘルピングの方法（問題の把握）										
	第7回	ピアヘルピングの方法（援助法の選択）										
	第8回	ピアヘルピングの方法（青年期の問題）										
	第9回	ピアヘルピングの方法（応用編）										
	第10回	ピアヘルピングの方法（ロールプレイ）										
	第11回	カウンセリングで起こりやすい問題点										
	第12回	様々な症例に対するカウンセリング										
	第13回	カウンセリングと保育										
	第14回	カウンセリングと子育て支援										
	第15回	まとめ										
授業に対する 予習・復習	予習： 教科書を熟読する。		復習： 教科書を読み直す。									
成績評価の方 法	試験期間における定期試験： 実施（ <input checked="" type="checkbox"/> ）する／（ <input type="checkbox"/> ）しない レポート（100%）											
教科書	『ピアヘルパー・ハンドブック』（日本教育カウンセラー協会編、図書文化社） 『ピアヘルパー・ワークブック』（日本教育カウンセラー協会編、図書文化社）											
参考文献												
注意事項	カウンセリングの理論の中から、人の悩みや話の聴き方を学んでいく。											

科 目 名	福 祉 施 設 の 現 状	単位数	2	担当教員	小室 泰治
授 業 の 内 容	福祉施設の利用者は、社会的養護を必要とする子どもたちや障害をもった子どもたち（成人施設を含む）である。その利用者はどのような生活をし、将来自立した生活を行うため職員はどのような支援を行っているのか、事例を通して自立支援のあり方を理解する。				
到 達 目 標	1 福祉施設の入退所に係る児童相談所や福祉事務所などの措置や支援について説明ができる。 2 各福祉施設の支援内容について説明ができる。 3 福祉施設職員として支援のあり方について理解する。				
授 業 計 画	第1回 社会的養護の必要な子どもの現状 福祉施設は各種ある。それぞれの施設はどのような役割を担っているかを学ぶ 第2回 福祉施設の入所から退所までの手続き 児童相談所、福祉事務所との措置関係について理解する 第3回 社会的養護が必要な子どもたちの施設と生活① 乳児院での保育士の役割や愛着関係の形成について理解する 第4回 社会的養護が必要な子どもたちの施設と生活② 児童養護施設での保育士の役割や虐待児への支援、自立に向けた支援のあり方について理解する 第5回 社会的養護が必要な子どもたちの施設と生活③ 情緒障害児施設での保育士の役割や家族への支援のあり方について学ぶ 第6回 社会的養護が必要な子どもたちの施設と生活④ 児童自立支援施設の現状と課題を学び、虐待と非行の関係について理解する 第7回 社会的養護が必要な子どもたちの施設と生活⑤ 母子生活支援施設の生活や子どもたちへの支援について理解する 第8回 社会的養護が必要な子どもたちの施設と生活⑥-1 障害者生活支援施設の現状と利用者の社会参加について理解する 第9回 社会的養護が必要な子どもたちの施設と生活⑥-2 福祉の就労と地域社会について理解する 第10回 社会的養護が必要な子どもたちの施設と生活⑦ 重症心身障害児施設の現状と課題について学ぶ 第11回 里親制度 被虐待児の増加と里親養育の意義について理解する 第12回 福祉施設の新しい動き 施設生活から地域生活重視へ グループホーム・ファミリーホーム 第13回 福祉施設の倫理 児童養護施設や障害児者施設での体罰事例を通して職員の倫理を考える 第14回 認可外保育施設の現状と課題 民間事業者参入に伴う認可外保育施設の増加と課題について考える 第15回 福祉施設のリスクマネジメント まとめ				
授 業 に 対 す る 予習・復習	予習： 施設の種別ごとにレポートをし発表してもらうので、日ごろからニュースや新聞報道に目を通して関心を持っておくこと。				
成 績 評 価 の 方 法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（60%）、レポート（20%）、課題（20%）				
教 科 書	使用しない 適宜プリントを配布				
参 考 文 献	『子どもたちの生活を支える社会的養護内容』 (小野澤昇・田中利則・大塚良一編著、ミネルヴァ書房、2013年)				
注 意 事 項					

科 目 名	地 域 福 祉	単位数	2	担当教員	秋山 展子																														
授 業 の 内 容	本講義では地域福祉の発展過程を踏まえながら、将来の展望を示し、社会福祉に必要な知識を学ぶことを目的としている。																																		
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域福祉の基本的な考え方とシステムを理解する。</li> <li>・行政組織と民間組織の役割を理解する。</li> <li>・現代における地域福祉の課題を理解する。</li> </ul>																																		
授 業 計 画	<table border="1"> <tr><td>第 1 回</td><td>新しい社会福祉システム</td></tr> <tr><td>第 2 回</td><td>地域福祉の基本的な考え方</td></tr> <tr><td>第 3 回</td><td>地域福祉の主体と福祉教育</td></tr> <tr><td>第 4 回</td><td>行政組織と民間組織の役割と実際</td></tr> <tr><td>第 5 回</td><td>コミュニティソーシャルワークと専門職の役割</td></tr> <tr><td>第 6 回</td><td>住民の参加と方法</td></tr> <tr><td>第 7 回</td><td>ソーシャルサポートネットワーク</td></tr> <tr><td>第 8 回</td><td>地域における社会資源活用・調整・開発</td></tr> <tr><td>第 9 回</td><td>地域における福祉ニーズの把握方法</td></tr> <tr><td>第 10 回</td><td>地域トータルケアシステムの構築と実際</td></tr> <tr><td>第 11 回</td><td>民生委員とは</td></tr> <tr><td>第 12 回</td><td>地域における福祉サービスの実際</td></tr> <tr><td>第 13 回</td><td>日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方</td></tr> <tr><td>第 14 回</td><td>福祉によるまちづくりとソーシャルアクション</td></tr> <tr><td>第 15 回</td><td>これまでのまとめ</td></tr> </table>					第 1 回	新しい社会福祉システム	第 2 回	地域福祉の基本的な考え方	第 3 回	地域福祉の主体と福祉教育	第 4 回	行政組織と民間組織の役割と実際	第 5 回	コミュニティソーシャルワークと専門職の役割	第 6 回	住民の参加と方法	第 7 回	ソーシャルサポートネットワーク	第 8 回	地域における社会資源活用・調整・開発	第 9 回	地域における福祉ニーズの把握方法	第 10 回	地域トータルケアシステムの構築と実際	第 11 回	民生委員とは	第 12 回	地域における福祉サービスの実際	第 13 回	日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方	第 14 回	福祉によるまちづくりとソーシャルアクション	第 15 回	これまでのまとめ
第 1 回	新しい社会福祉システム																																		
第 2 回	地域福祉の基本的な考え方																																		
第 3 回	地域福祉の主体と福祉教育																																		
第 4 回	行政組織と民間組織の役割と実際																																		
第 5 回	コミュニティソーシャルワークと専門職の役割																																		
第 6 回	住民の参加と方法																																		
第 7 回	ソーシャルサポートネットワーク																																		
第 8 回	地域における社会資源活用・調整・開発																																		
第 9 回	地域における福祉ニーズの把握方法																																		
第 10 回	地域トータルケアシステムの構築と実際																																		
第 11 回	民生委員とは																																		
第 12 回	地域における福祉サービスの実際																																		
第 13 回	日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方																																		
第 14 回	福祉によるまちづくりとソーシャルアクション																																		
第 15 回	これまでのまとめ																																		
授 業 に 対 す る 予習・復習	予習 :	復習 : 配布した資料を再読し、毎回の復習を各自で行い、理解を深めること。																																	
成 績 評 価 の 方 法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない</p> <p>筆記試験（60%）、課題（10%）、授業態度（30%）</p> <p>※講義の中で必要に応じて小テストをおこなう。</p>																																		
教 科 書	授業でプリント配布																																		
参 考 文 献																																			
注 意 事 項	提出物の期限は厳守すること。																																		

科 目 名	保 育 施 設 経 営 論	単位数	2	担当教員	伊能 恵子
授 業 の 内 容	保育所を経営するということは、保育実践による“価値”を生み出し続けることである。そのためには、経営の条件を知り、「何のために」「何を大事にして」「どうあるべきか」を考え尽くすことが経営者の義務であり、為すべきことである。本講義において、この経営の本質を「経営品質」の視点から考察し、現場において活用できるように細分化する。また、保育所施設経営の重要性に対する実感を本講義のねらいとしたい。				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生一人一人が経営者として立つ倫理観を習得できる。</li> <li>・保育所施設経営の観点から、実践を磨いていく具体的な方法を学生一人一人が習得できる。</li> </ul>				
授 業 計 画	第 1 回	保育所経営の条件			
	第 2 回	価値を生み出す保育所経営活動			
	第 3 回	保育所におけるリーダーシップ			
	第 4 回	保育所における社会的責任			
	第 5 回	保育業界市場の理解と対応			
	第 6 回	保育所戦略の策定と展開			
	第 7 回	保育士の能力向上			
	第 8 回	保育所の能力向上			
	第 9 回	保育現場という職場環境			
	第 10 回	保育価値創造のプロセス			
	第 11 回	情報マネジメント			
	第 12 回	保育所経営活動結果分析			
	第 13 回	人事・労務管理			
	第 14 回	施設・整備管理			
	第 15 回	まとめ			
授 業 に 対 す る 予習・復習	予習： 毎回の授業時に、講義内容を踏まえた予習課題を明示する。	復習：	毎回の授業後に、講義内容の理解を図るための復習課題を課し、添削指導を行い必ず理解につなげ発展できるよう指導する。		
成績評価の方 法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（50%）、課題（50%）				
教 科 書	授業中におって指示する				
参 考 文 献	『社会福祉施設・事業者の為の経営ハンドブック』（東京都社会福祉協議会） 『日本経営品質賞アセスメント基準書』（日本経営品質委員会）、日本経営品質学会機関紙				
注 意 事 項					

科 目 名	インター シップ II	単位数	2	担当教員	橋本 洋子・星野 治							
授 業 の 内 容	この授業では、地域保育学科が提供する学外実習の一つ「インター シップ実習」のための準備を行い、長期休業期間等を利用して実際の就業活動を体験する。											
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>前回のインター シップ実習の経験や、事業体での新たな実務経験を通して、自身のうちにしっかりとした職業意識を育てることができる。</li> <li>本番の就職活動の開始に先立ち、自分が目指す就職とはどういうものかを認識できる。</li> <li>本番の就職活動の開始に先立ち、本学の代表学生としての自覚および責任感を持つことができる。</li> </ul>											
授 業 計 画	第 1 回	ガイダンス① 地域保育学科におけるインター シップ実習の意義、今後の予定、その他。										
	第 2 回	ガイダンス② インター シップ実習事後報告会（前回実習参加者による体験発表）の聽講、その他。										
	第 3 回	事業体研究 インター シップ実習の受け入れを表明した事業体（変動あり）の職種や業務内容等について、理解を深める。										
	第 4 回	実習申し込み 第一志望の職種だけにこだわらず、いろいろな職種での体験就業に挑戦することを推奨する。										
	第 5 回	選考試験 地域保育学科専任教員による学内面接を行う。この面接によって、実習参加の可否等が判定される。										
	第 6 回	実習先事業体の決定 必ずしも第一志望どおりとは限らない。他学科（文化表現学科）のインター シップ実習実施分と併せて告知される。										
	第 7 回	事前指導① 学外向け書類（誓約書、身上書）の作成および提出を行う。										
	第 8 回	事前指導② 実習全体を通じた諸注意事項、必要な事務手続きの説明、社会人としての基本マナーの学習などを行う。										
	第 9 回	体験学習（現場実習） ・現場実習は、主に長期休業期間（夏季、春季）を利用して実施する。										
	第 10 回	・実習日数は、原則として 10 営業日である（事業体によっては、実習日数が増減する場合がある）。 ・実習期間中、地域保育学科専任教員による巡回指導がある。										
	第 11 回	・実習期間が他の実習や行事と重複する場合は、事前に日程調整を行う。 原則として、資格・免許の取得に必要な実習のほうが最優先される。										
	第 12 回	ただし、インター シップ実習は『地域活動 I』『地域活動 II』の学外実習よりも優先される。 ・事業体によっては、独自の必要な審査や研修等を、実習開始前に行う場合がある。										
	第 13 回	・実習中の活動内容は、本学所定の実習日誌に記述する。 実習日誌は実習終了後、事業体からの評価を経て、本学へ返戻される。										
	第 14 回	事後指導① 実習日誌の記載内容（事業体からの評価を含む）に基づいて担当教員と個別面談を行う。										
	第 15 回	事後指導② インター シップ実習事後報告会の実施（日時・場所は別途通知する）。										
授 業 に 対 す る 予 習・復 習	予習： 『インター シップ（インター シップ I）』 の場合と同じく、過去の実習日誌をよく読んでおくこと。その他、予習（事前準備）が必要な事項については、担当教員が指示する。	復習：	復習が必要な事項については、担当教員が指示する。									
成 績 評 価 の 方 法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（○）しない 実技（70%）、授業態度（30%）											
教 科 書	必要に応じて隨時指定する。											
参 考 文 献	必要に応じて隨時紹介する。											
注 意 事 項	<ul style="list-style-type: none"> <li>この授業は、前年度以前に本学地域保育学科へ入学した学生であって、下記の⑦～⑩のいずれかに該当し、さらなるインター シップ実習への参加を希望する者が履修できる。           <ul style="list-style-type: none"> <li>⑦ 『インター シップ I』の単位を取得済みである者。</li> <li>⑧ 『インター シップ I』（前年度開講）の春季学外実習を終了して、単位取得見込みである者。</li> <li>⑨ 『インター シップ』（今年度より新規開講）の学外実習を終了して、単位取得見込みである者。</li> </ul> </li> <li>今年度本学入学者は、この授業を履修できない。</li> <li>履修登録者の多少ほかの理由により、授業日時や授業教室を変更する場合がある。</li> <li>『インター シップ』との合同授業になる場合がある。</li> <li>学内授業でも学外実習中でも、“無断～”のたぐいの行動（無断欠席、無断遅刻、無断私語、無断内職、無断早退、その他）は、すべて厳禁である。</li> <li>「選考試験」「事前指導②」「事後指導②」を欠席した場合（理由不問）、履修辞退と見なされて、単位を取得できない場合がある。</li> </ul>											